

授 業 要 綱

2021 年度（令和 3 年度）

理学療法学科 昼間部

専門学校 社会医学技術学院

理学療法学科 昼間部

2021 年度（令和 3 年度）

目次

教育理念・教育目標・3つのポリシー

教育理念・教育目標	・・・	1
・3つのポリシー		

1 年 生

《基礎分野》

基礎力養成講座	・・・	2
情報社会と情報リテラシー	・・・	3
バイオメカニクス	・・・	4
医療コミュニケーション論Ⅰ	・・・	5
生命倫理学	・・・	6
現代社会と社会保障	・・・	7

《専門基礎分野》

解剖学Ⅰa	・・・	8～9
解剖学Ⅰb	・・・	10～11
解剖学Ⅱa	・・・	12
解剖学Ⅱb	・・・	13
生理学Ⅰa	・・・	14
生理学Ⅰb	・・・	15
生理学Ⅱa	・・・	16
生理学Ⅱb	・・・	17
人間発達学	・・・	18
運動学Ⅰ	・・・	19
運動学Ⅱ	・・・	20
リハビリテーション医学	・・・	21
臨床心理学	・・・	22
リハビリテーション概論	・・・	23

《専門分野》

理学療法概論	・・・	24
理学療法演習Ⅰ	・・・	25
フィジカルアセスメント	・・・	26
理学療法評価学Ⅰa	・・・	27
理学療法評価学Ⅰb	・・・	28
物理療法学Ⅰ	・・・	29
生活環境支援理学療法学	・・・	30
臨床見学実習	・・・	31

2 年 生

《基礎分野》

医療コミュニケーション論Ⅱ	・・・	32
---------------	-----	----

《専門基礎分野》

運動学演習	・・・	33
病理学概論	・・・	34
臨床神経学	・・・	35
整形外科Ⅰ	・・・	36
整形外科Ⅱ	・・・	37
臨床内科学Ⅰ	・・・	38
臨床内科学Ⅱ	・・・	39
社会医学	・・・	40
臨床運動学		41

《専門分野》

理学療法演習Ⅱ	・・・	42
理学療法演習Ⅲ	・・・	43
理学療法評価学Ⅱa	・・・	44
理学療法評価学Ⅱb	・・・	45
理学療法評価学Ⅲ	・・・	46
理学療法臨床推論	・・・	47
運動療法学	・・・	48
運動器系理学療法学	・・・	49
中枢神経系理学療法学Ⅰ	・・・	50
発達系理学療法学	・・・	51
神経筋系理学療法学	・・・	52

物理療法学Ⅱ	．．．	53
日常生活活動論	．．．	54
義肢装具学	．．．	55
地域理学療法論	．．．	56
臨床実習Ⅰ	．．．	57
臨床実習Ⅱ	．．．	58

3 年 生

《基礎分野》

統計学	．．．	59
-----	-----	----

《専門基礎分野》

リハビリテーション医学	．．．	60
-------------	-----	----

《専門分野》

理学療法演習Ⅱ	．．．	61
理学療法概論Ⅱ	．．．	62
運動療法学技術論	．．．	63
脳血管障害理学療法学Ⅱ	．．．	64
日常生活活動論演習	．．．	65
内部障害理学療法学	．．．	66
生活環境論	．．．	67
地域理学療法論	．．．	68
臨床実習Ⅲ-A	．．．	69
臨床実習Ⅲ-B	．．．	70

《教育理念》

本校は、人により添い、生きることを支えるために、専門的知識及び技術を習得するとともに、深い人間愛と高い人間性を涵養し、社会に貢献する理学療法士・作業療法士を育てます。

《教育目標》

1. 人の思いや痛み、苦しみや喜びを共感できる豊かな人間性の育成
2. 多職種と連携して自己の役割を果たせるコミュニケーション能力の育成
3. 人が抱える問題を論理的・創造的に解決できる思考力の育成
4. 科学的根拠に基づいた確かな専門知識・技術の育成
5. 専門職として生涯にわたり学習し、研鑽し続ける意欲の育成

《3つのポリシー》

・アドミッションポリシー（このような人をもとめています）

自分の経験を活かし理学療法士・作業療法士として働く意志を表明し、以下を満たす人

- 1) 情熱を持ち、困難な状況にある人々を積極的に支援しようとする人
- 2) 肯定的な人間観を持ち、人格を尊重できる人
- 3) 論理的な思考ができ学習に熱意がある人

・カリキュラムポリシー（このような教育を行います）

教育目標を達成するために、成長する基礎力ー深く考える力・共感する力・科学する力ーを育む教育

- 1) 個々人の能力に適した方法で提供する、学生中心の教育
- 2) 医療や地域、また対象となる人の生活を考慮した幅広いリハビリテーション分野の教育
- 3) 他（多）職種や、対象となる人に関わる人々と連携するために必要な教育

★ ディプロマポリシー（このような人材を育てます） ★

リハビリテーションの理念のもと、対象となる人は生活者であることを理解し適切なサービスを提供できる人材

- 1) 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人…DP1
- 2) 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人…DP2
- 3) 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人…DP3
- 4) 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人…DP4

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座				
担当者氏名	坂田 晋一、山田 千鶴子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

初年次教育の中核であり、ディプロマポリシーで掲げる療法士養成へ円滑な導入を図るために、基礎力形成のためのスキILLSを習得する。

《目標行動(SBO)》

- ①短文を読める ②長文を読める ③入門書を読める
④専門書を読める ⑤模型を扱える ⑥スキーマを作れる
⑦予習(語彙数を増やす) ⑧ノートをとれる
⑨ファイリングできる ⑩文章をかける
⑪発表できる ⑫学習計画を立案できる
⑬パソコンを扱える ⑭ポートフォリオを作成する

《成績評価の方法》

この科目で学んだことと、試験への学習計画のレポートを成果物とします(100%)

《テキスト》

各科目の教科書

《参考図書》

新井紀子：『AIに負けない子どもを育てる』・東洋経済新報社、2019年。
玉先生：『のほほん解剖生理学』・永岡書店、2016年。
松村譲児：『イラスト解剖学第9版』・中外医学社、2017年。
當瀬規嗣：『史上最強カラー図解はじめての生理学』・ナツメ社、2014年。

《学生の留意点》

・今後の学習の土台作りとなる基礎学力の向上が目的である。
・各自、必要な課題は実施した上で授業に臨むこと。課題を行わず講義に参加することは自分だけでなく、協同学習者に迷惑をかける。お互いの考えを学ぶことで学習効果が高まるため、自分の考えをもとに積極的に発言すること、共に学ぶ場を皆で創ること。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、山田学院長、坂田(理学療法士)が担当し、その実務経験を生かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オンデマンド講義への適応	オリエンテーション・PCを用いた同時双方向性講義とグループワークの実際
2	オンデマンド講義への適応	オリエンテーション・PCを用いた同時双方向性講義とグループワークの実際
3	学び方	学習の準備・学ぶ下地作り・本の選択・図で理解する抽象化思考と意味づけ記憶・忘却曲線を考慮した学習計画立案
4	学び方	主体的に取り組む・人を育てるFeedback・基礎学力の有無による視覚理解と聴理解の違い・語彙力を高めることで見える世界の解像度を高める・専門書の前に入門書を読む
5	学び方、計画する力、行動にうつす力	体験を通して学ぶ(模型の使い方：模型を同定する、解剖学の3次元イメージを作る、複数の方向から図を作成する)(なりたいたい自分像を明確にし、近づくための計画と行動)
6	読む力	積み重ねてきたリーディングスキル、基礎学力を振り返り、積み残したスキルや知識を認識する
7	スタディスキル	積み重ねてきたスタディスキルを振り返り、積み残したスキルを認識する
8	社会人が読む読み物を読み取る	社会人として社会に出ている新聞の内容を読み取るスキルを再確認する
9	記録する力	ノートテイキング
10	記録する力	Wordによる文章の書き方(短文作成、問題作成、科学的文章の構成、レポート作成)
11	記録する力	excelによる図表・グラフの作成
12	説明する力	言葉の遣い方：社会人として社会に適応する(敬語の使い方・社会生活場面で用いる適切な言葉選び)
13	説明する力、計画する力、行動にうつす力	言葉の遣い方：レジリエンス(失敗体験を受け止め、省みて、自らの不足と行動変容を示し、相手に受け入れてもらい、社会に復帰するための工夫)
14	試験準備	授業の受け方(予復習)、ノートの取り方、ノート整理、紙とデータのファイリング状況をグループワークで確認する。
15	試験準備	本科目を振り返り、試験への学習計画を作成する。

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー				
担当者氏名	和島 英明				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

私たちの生活を取り巻く「情報」の取り扱いを習得するために、情報社会の現状を理解し、正しい情報収集方法、情報の吟味、情報セキュリティ、また情報を取り扱うスキルとマナーなどについて理解する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

- 1) 「情報」の今日的意義を説明できる。
- 2) 情報社会(SNS, 情報マナー, セキュリティ等)の現状と正しい取り扱い方法を説明できる。
- 3) 情報収集した内容をパワポでまとめることができる。
- 4) 「統計」の基本を説明できる。

《学生の留意点》

本科目の内容を十分理解し、日常の情報の正しい取り扱いに活かしてほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験(80%), 発表(20%)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における中小企業診断士, 理学療法士としての実務経験を、情報リテラシーという観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	情報力とは	(村上)
2	数字を読む力～数字に騙されないために～	(村上)
3	今どきのIT①	AI, IoT, RPA等について (村上)
4	今どきのIT②	SNS, 情報マナー, セキュリティ等について (村上)
5	情報収集と整理力	アナログとデジタルでの収集, フレームワーク (村上)
6	思考力	思考法の種類と実践 (村上)
7	パワーポイント	パワーポイントの使い方, 発表に向けたグループ課題(7テーマ) (和島)
8	グループ学習	グループ課題の各テーマについて調べ学習 (和島)
9	グループ発表	グループ課題の各テーマについて発表 (和島)
10	情報収集の方法	医療情報の集め方, ヘルスコミュニケーションなど (美崎)
11	文献検索	医学論文の探し方, 電子データベースの使い方など (美崎)
12	統計とは	統計の必要性, 考え方など (美崎)
13	記述統計と推測統計	基本統計量, 統計学的推定, 検定など (美崎)
14	臨床と統計	EBPTや研究における統計の活用, 論文の読み方など (美崎)
15	まとめ	(和島)

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	バイオメカニクス				
担当者氏名	福田 崇				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GI0)》

身体運動について、基礎となる力学的な考え方を身につける。

《テキスト》

①山本澄子ら：『基礎バイオメカニクス』。第2版。医歯薬出版。2015年。②中村隆一ら：『基礎運動学』。第6版補訂。医歯薬出版。2012年。

《参考図書》

江原義弘，山本澄子，中川昭夫：『PT・OT・PO 身体運動の理解につなげる物理学』。南江堂。2015。

《目標行動(SBO)》

1. 身体における運動の記述方法を学び、説明できる。
2. 力の合成・分解を学び、問題を解けるようになる。
3. 身体におけるモーメントの利用を学び、問題を解けるようになる。
4. 身体動作における重心の速度と加速度が説明できる。
5. 身体動作における床反力と床反力作用点を説明できる。
6. 身体動作における関節モーメントを説明できる。

《学生の留意点》

バイオメカニクスは解剖学と運動学と物理学を基礎にした科目です。同時進行で学ぶ解剖学と運動学は補足説明をしながら物理学を身体運動に適用していくことを学びます。計算もたくさんありますが、問題を繰り返し解くことで解けるようになります。一步一步積み上げましょう。

《成績評価の方法》

期末試験 100%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	身体運動と力学	授業概要，身体運動と力学，時間と空間 ②
2	骨と関節の運動	骨と関節の運動 ②
3	力の合成と分解	力の合成と分解 ①
4	剛体と回転運動，モーメント	剛体と回転運動，モーメント ②
5	剛体の平衡条件	剛体の平衡条件 ②
6	重心の求め方	重心の求め方 ①
7	重心の速度・加速度	重心の速度・加速度 ①
8	床反力と重心加速度	床反力と重心加速度 ①
9	床反力作用点(COP) とは何か	床反力作用点(COP) とは何か ①
10	関節モーメントと筋活動	関節モーメントと筋活動 ①
11	立ち上がりのバイオメカニクス	立ち上がりのバイオメカニクス ①
12	歩き始めのバイオメカニクス	歩き始めのバイオメカニクス ①
13	歩行のバイオメカニクス	歩行のバイオメカニクス 重心と床反力作用点 ①
14	歩行のバイオメカニクス	歩行のバイオメカニクス 重心の動きを滑らかにする機能 ①
15	歩行のバイオメカニクス	歩行のバイオメカニクス 歩行の観察 OGIGの方法 ①

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論Ⅰ				
担当者氏名	長屋 説、佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

臨床見学実習の目標を達成するために、社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、体得できる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会医学技術学院の学生である意味を理解できる。
2. 医療人としてのマナー、医療安全について理解できる。
3. 臨床見学実習を遂行するための心構えができる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。

《成績評価の方法》

提出課題 100%
(ミニッツペーパーやレポートを課します。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コース・オリエンテーション	概要の説明とアイスブレイク 相手に興味を持つと言うこと、事柄の意味を知ろうとすること。
2	医療人としての身だしなみとは	医療人としての身だしなみとは 社医学生としてのマナーとは 授業聴講について
3	感染症について	感染の種類と対応について ～医療従事者としてのエチケットを考えてみる～
4	学校と施設	社医学を取り巻く環境を知ろう。学校と実習地、そして同窓会、職能団体とは。 病期について学ぶ (どこで働く理学療法士になりたいですか)
5	学校の備品についてその1	骨標本・筋模型の点検・整備をしながら学ぼう①
6	学校の備品についてその2	骨標本・筋模型の点検・整備をしながら学ぼう②
7	急性期で働く理学療法士	急性期の現場で働く理学療法士に実際の仕事を聞いてみよう。(外部講師)
8	回復期で働く理学療法士	回復期の現場で働く理学療法士に実際の仕事を聞いてみよう。
9	生活期で働く理学療法士	生活期の現場で働く理学療法士に実際の仕事を聞いてみよう。
10	実習前オリエンテーション1	実習とは 医療安全について (医療安全とは何を指すのか、責任はどこにあるのか) 社医学を取り巻く環境を知ろう。学校と実習地、そして同窓会
11	実習前オリエンテーション2	実習前準備
12	実習後セミナーその1	実習で得たことをまとめてみよう (失敗談・他施設の情報収集)
13	実習後セミナーその2	グループワーク
14	実習後セミナーその3	報告会・発表
15	実習後セミナーその4	臨床実習Ⅱに繋がる振り返り

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	青柳 圭祐				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

プロフェッショナルの基礎としての人間性を涵養するために、生命倫理的課題を多角的に検討し、生命の尊厳について深く考察できる。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

生命倫理を健康・病気・医療から、生殖技術、移植医療、安楽死、障害など、現代の倫理課題までを多角的(科学的エビデンス、ナラティブなど)な視点で考え、自らの言葉で発表し、討論できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末筆記試験60点(知識問題30点, 論述15点×2題)
リアクションペーパー40点(毎回授業後, 提出2点, 内容3点, 計8回)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を, 医療倫理・生命倫理という観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	倫理とは
2	ハラスメント	差別や偏見、人権
3	遺伝性疾患における倫理	
4	生殖医療	
5	患者医療者関係	インフォームド・コンセント
6	がんの告知をめぐって	
7	個人情報と守秘義務	
8	移植医療 1	生体臓器移植
9	移植医療 2	脳死臓器移植
10	安楽死、尊厳死 1	
11	安楽死、尊厳死 2	
12	障害	
13	高齢者、認知症	
14	臨床倫理	患者や家族と医療従事者との信念対立
15	まとめ	

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	現代社会と社会保障				
担当者氏名	渋谷 智明				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

公的扶助, 社会保険制度など社会保障制度の政策理念、機能など具体的施策の内容を理解するために, 少子高齢化や財政的課題について, 英国など先進諸国制度とも比較・検証し, 安定的な制度設計を考察する。

《テキスト》

棕野美智子・田中耕太郎：『はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ』。有斐閣アルマ。2019年

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

- 1) 社会保障制度の柱である介護・医療保険・年金・雇用保険などの保険制度の枠組みを説明できる。
- 2) 公的扶助の制度設計の基礎になっている財政基盤（保険料と税）の現状を説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムを理解し, 直面している課題・問題を説明できる。

《学生の留意点》

テーマ内容について, 参考書及び関連資料・文献等を基に事前学習をする調査・分析作業を導入します。

《成績評価の方法》

レポート（50%）, 発表（20%）, 討議（30%）

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	欧米の現行社会保障制度の現状の中で, 日本の社会保障制度の位置づけと, どのように機能し, またどのような課題を抱えているのかを概説する
2	社会保障の概念整理	サービスの形態と社会のセーフティネットとしての社会保障
3	社会保障の柱	公的扶助, 社会福祉制度と社会保険制度
4	社会福祉	児童, 母子, 高齢者
5	社会福祉	障害者自立支援制度
6	公的扶助（生活保護）	
7	公的介護保険制度①	予防給付の導入
8	公的介護保険制度②	地域包括ケア
9	公的介護保険制度③	給付と負担
10	医療保険制度①	被用者保険と統合
11	医療保険制度②	国民健康保険と後期高齢者医療保険
12	公的年金制度	社会保険方式と租税方式とのあり方
13	雇用保険制度	社会の変容と非正規雇用, 高齢者雇用のあり方
14	労働者災害補償保険	ブラック企業と過労死, 労災認定, 戦前・戦後の制度的変遷
15	まとめ	日本の社会保障制度の歴史, 社会保障制度をめぐる代表的な制度改革論争の検証, 社会保障の安定的かつ持続的運営システムに関する提言, 今後の展望。

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節靱帯学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。

横地千仞：『カラーアトラス 人体ー解剖と機能』、医学書院、2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造、発生と成長について説明できる。
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる。
3. 筋の分類と作用、補助装置、上肢の筋について説明できる。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	解剖学総論	解剖学の概要、解剖学用語
2	骨学総論	骨の種類と構造、骨の発生と成長
3	骨学各論	体幹の骨格（脊柱）
4	〃	体幹の骨格（胸郭）
5	〃	上肢の骨格
6	〃	下肢の骨格
7	〃	頭蓋の骨格
8	〃	復習
9	関節靱帯学総論	関節の一般構造と種類
10	関節靱帯学各論	体幹、上肢の関節
11	〃	下肢の関節
12	筋学総論	筋の分類と作用、筋の補助装置
13	筋学各論	頭頸部の筋
14	〃	上肢帯の筋
15	〃	上肢の筋

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節靱帯学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。
横地千仟：『カラーアトラス 人体ー解剖と機能』、医学書院、2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造、発生と成長について説明できる
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる
3. 筋の分類と作用、補助装置、上肢の筋について説明できる

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	関節靱帯学総論	関節の一般構造と種類
2	〃	〃
3	関節靱帯学各論	体幹、上肢の関節
4	〃	〃
5	〃	下肢の関節
6	〃	〃
7	筋学総論	筋の分類と作用、筋の補助装置
8	〃	〃
9	筋学各論	頭頸部の筋
10	〃	〃
11	〃	上肢帯の筋
12	〃	〃
13	〃	上肢の筋
14	〃	〃
15	〃	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I b				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、

2013年。〔準教科書扱い〕

横地千代：『カラーアトラス 人体－解剖と機能』、医学書院、2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる。
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	筋学各論	体幹筋
2	筋学各論	下肢帯の筋
3	筋学各論	下肢の筋
4	内臓学総論	内臓の一般的構造と体内における配置
5	内臓学各論	消化器系
6	"	消化器付属腺
7	"	循環器系（心臓と血管）
8	"	循環器系（リンパ系）
9	"	呼吸器系
10	"	内分泌系
11	"	感覚器系（眼、耳）
12	"	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
13	"	泌尿器系、男性生殖器
14	"	女性生殖器
15	"	発生学

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰb				
担当者氏名	川上 速人				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。〔準教科書扱い〕
横地千仞：『カラーアトラス 人体―解剖と機能』、医学書院、2013年。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内臓学各論	循環器系（リンパ系）
2	〃	〃
3	〃	呼吸器系
4	〃	〃
5	〃	内分泌系
6	〃	〃
7	〃	感覚器系（眼、耳）
8	〃	〃
9	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
10	〃	〃
11	〃	泌尿器系、男性生殖器
12	〃	〃
13	〃	女性生殖器
14	〃	〃
15	〃	発生学

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱa				
担当者氏名	高見 茂				
授業方法	講義・演習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、神経系について学ぶ。

《テキスト》

野村巖：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第5版』、医学書院、2010年。

《参考図書》

W. Platzer, 他著、平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。井上貴央 監訳：『カラー人体解剖学—構造と機能：ミクロから マクロまで』、西村書店、2003年。P. W. Tank, T. R. Gest 著、佐藤達夫訳：『あたらしい解剖学アトラス』、MEDSi、2009年。

《目標行動(SBO)》

1. 神経系についての解剖学用語を説明できる。
2. 末梢神経系の基本構造と名称を、機能と関連付けて説明できる。
3. 中枢神経系の基本構造と部位名を機能と関連付けて説明できる。
4. 主な神経路について、その線維連絡と機能の概要を説明できる。
5. 神経系の断層解剖の概略を説明できる。
6. 神経系の表層解剖の概要を説明できる。

《学生の留意点》

学名(和名)を正確に書けること。脳などの三次元(立体)的構造を把握すること。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経系概論	神経系の区分、神経系の構成と組織学、髄膜と脳室系、神経系の発生
2	中枢神経系 (1)	脊髄：外形と断面、脳幹：延髄、橋、中脳、網様体
3	中枢神経系 (2)	小脳：外形と区分、小脳脚、内部構造、大脳：間脳、終脳(大脳半球)
4	中枢神経系 (3)	神経路：上行性神経路、下行性神経路
5	末梢神経系 (1)	脊髄神経：頸神経、頸神経叢、腕神経叢
6	末梢神経系 (2)	脊髄神経：胸神経、腰神経、腰神経叢、仙骨神経、仙骨神経叢、尾骨神経叢
7	末梢神経系 (3)	脳神経：嗅神経、視神経、動眼神経
8	末梢神経系 (4)	脳神経：滑車神経、三叉神経、外転神経
9	末梢神経系 (5)	脳神経：顔面神経、内耳神経
10	末梢神経系 (6)	脳神経：舌咽神経、迷走神経
11	末梢神経系 (7)	脳神経：副神経、舌下神経
12	末梢神経系 (8)	交感神経系、副交感神経系、壁内腸神経系
13	神経系の断層・表層解剖	中枢、末梢神経系の断層解剖、体表解剖と末梢神経の触察法
14	化学的神経解剖学	コリン作動系、モノアミン作動系：ドーパミン作動系、ノルアドレナリン作動系、他
15	理学療法との関連事項	神経系障害との関わり、中枢神経系の障害、末梢神経系の障害(ニューロパシー)

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱb				
担当者氏名	高見 茂				
授業方法	講義・演習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、脈管系について学ぶ。

《テキスト》

野村巖 編著：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第5版』、医学書院、2020年。

《参考図書》

・W. Platzer 他 著、平田幸男 訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。
井上貴央 監訳：『カラー人体解剖学―構造と機能：ミクロからマクロまで』、西村書店、2003年
P. W. Tank, T. R. Gest 著、佐藤達夫 訳：『あたらしい解剖学アトラス』、MEDSi、2009年。

《目標行動(SBO)》

1. 脈管系についての解剖学用語を説明できる。
2. 心臓の基本構造と機能の概要について説明できる。
3. 全身の主な脈管の名称と走行の概要を説明できる。
4. 脈管と神経の局所解剖の概要について説明できる。
5. 脈管系の断層・表層解剖の概要について説明できる。

《学生の留意点》

学名(和名)を正確に書けること。動脈、静脈、リンパ系の分布について、三次元(立体)的に把握すること。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士が一部助手に入り、その実務経験を生かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脈管系概論	脈管系の組織学、血液循環とリンパ循環、胎生期の血液循環、血液循環の切り替え
2	心臓	外形、内部構造、冠循環、刺激伝導系
3	動脈系(1)	大動脈、頭部、頸部、肩部および上肢の動脈
4	動脈系(2)	胸腹部、骨盤の動脈
5	動脈系(3)	腰部、大腿、下腿の動脈
6	静脈系(1)	大静脈系と皮静脈系
7	静脈系(2)	奇静脈系と門脈系
8	特徴的な血管系	脳に分布する動脈系、腎臓、肝臓、下垂体門脈系、腸間膜
9	リンパ系	リンパ管、リンパ節およびリンパ系器官、リンパ系の構造的特徴
10	局所解剖学からみた血管(1)	神経およびその他の構造との関連。頭頸部
11	局所解剖学からみた血管(2)	神経およびその他の構造との関連。上肢
12	局所解剖学からみた血管(3)	神経およびその他の構造との関連。体幹
13	局所解剖学からみた血管(4)	神経およびその他の構造との関連。下肢
14	脈管系の断層・表層解剖	頭頸部、胸部、腹部および下肢の断層解剖学、表層解剖および血管の触察法
15	理学療法との関連事項	循環器系障害とのかかわり

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I a				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるため、「膜電位の発生機序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）及び末梢神経と効果器（筋）の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』。文光堂。2017年。

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる。
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる。
3. 身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）について説明できる。
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について関係づけることができる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とつながり医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、実習レポート30%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概論	生理学概論，神経生理学概論
2	細胞機能の基礎	細胞の環境，構造・構造・機能調節
3	細胞機能の基礎②	細胞膜を通過する物質移動
4	細胞機能の基礎③	細胞膜を通過する物質移動
5	活動電位，イオンチャンネル	膜電位，興奮発生と膜電流，イオンチャンネルの機能と構造
6	神経の基本・興奮伝導について	神経線維の構造，跳躍伝導，興奮伝導の特徴（興奮伝導の3原則），神経線維の種類
7	骨格筋について	筋の基本的機能，筋節（サルコメア），筋フィラメント（アクチン，ミオシンについて）調節タンパク質（トロポニン，トロポミオシンについて）
8	骨格筋について（その2）	筋小胞体とT管（横行小管），Ca ²⁺ による筋収縮の開始（筋の収縮），等尺性収縮と等張性収縮，筋収縮の基本の型，神経支配比，筋収縮のエネルギー
9	興奮の伝達と抑制	興奮の伝達と抑制，シナプスについて，神経筋伝達，神経筋接合部の伝達
10	自律神経系①	自律神経系との構成と作用，自律神経系の受容体①
11	自律神経系②	自律神経系の受容体②
12	運動系①	脊髄について，脳幹について
13	運動系②	小脳について，大脳基底核について①
14	運動系③	大脳基底核について②、
15	運動系④	運動系①～③までまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I b				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』、文光堂、2017年。

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	運動系⑤	大脳皮質について
2	感覚生理学総論・体性感覚①	感覚系神経システムの理解
3	体性感覚②	感覚の強度、体性感覚と受容器、体性感覚の伝導路・中継核①
4	味覚、嗅覚	体性感覚の伝導路・中継核②、大脳皮質の体性感覚野、痛覚、痒み
5	聴覚	味覚、(味覚系、満腹、摂食中枢、嚥下) 嗅覚
6	前庭感覚	音の性質と聴力、伝音機構、内耳の音受容、聴覚の中枢
7	視覚①	前庭器官の構造と機能、前庭系の神経回路
8	視覚②	眼球の光学系、網膜の光受容、視覚の中枢神経機序
9	感覚器	感覚としての視覚、眼球運動、演習
10	脳の統合機能①	感覚器(1～8回)のまとめ
11	脳の統合機能②	大脳皮質の構造と機能
12	脳の統合機能③	大脳辺縁系と視床下部
13	脳の統合機能④	脳の情動、行動を調節する伝達物質、脳波、演習(脳波について)、覚醒と睡眠
14	脳の統合機能⑤	学習と記憶
15	脳の統合機能⑥	脳の統合機能(10～14回)のまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱa				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

《参考図書》

佐藤昭夫他：『人体の構造と機能』、医歯薬出版、2015

《目標行動(SBO)》

1. 体液、血液の役割とその機序を理解できる。
2. 心臓、血管の循環系の役割とその機序を理解できる。
3. 生体防御機構免疫系の役割とその機序を理解できる。
4. 呼吸・酸塩基平衡の役割とその機序を理解できる。
5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を理解できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。

《成績評価の方法》

小テスト・中間テスト・期末テスト・レポート課題等を総合的に評価する。

臨床医学に貢献できるように、高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	体液	生命現象の本態、ホメオスタシス、体液の役割、体液の組成、ミネラルの働き
2	体液	水分の生理機能、体液量の調節、脱水、浮腫、カルシウムの吸収と代謝
3	血液	血液の成分と機能、血液の物理化学的特性、血液の成分、造血と造血因子
4	血液	赤血球の形状と機能、赤血球の新生と破壊、ヘモグロビンの働き、貧血
5	血液	白血球、血小板、血漿の形状と機能、血液凝固作用、血小板血栓、二次血液凝固
6	血液	ABO式血液型、RH式血液型、赤血球の凝集反応、凝集原（抗原）凝集素（抗体）
7	免疫	非特異的防御機構、特異的防御機構、免疫機構、リンパの働き、アレルギー
8	循環	体循環、肺循環、心臓の構造と機能、心筋の特性、刺激伝導系
9	心臓	心周期、心音、心拍数の調節、心臓の神経支配、心筋の電気現象と心電図
10	血管	動脈・静脈・毛細血管の特徴、血管の自律神経、冠循環、脳循環、腹腔内循環
11	血管	血圧の調節要因、局所性調節、ホルモン調節、リンパ管の構造と機能
12	呼吸	換気の仕組み、気道、肺の構造と機能、呼吸筋と呼吸運動、肺胞換気量
13	呼吸	肺におけるガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸による体液の酸塩基平衡
14	呼吸	呼吸に影響を与える因子、呼吸調節作用、呼吸中枢、特殊環境の呼吸への影響
15	体温	体温の調節、体熱の産生、基礎代謝量、体熱の放散、体温調節中枢、日内変動

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱb				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

《参考図書》

佐藤昭夫他：『人体の構造と機能』，医歯薬出版，2015年。

《目標行動(SBO)》

1. 体液，血液の役割とその機序を理解できる。
2. 心臓，血管の循環系の役割とその機序を理解できる。
3. 生体防御機構免疫系の役割とその機序を理解できる。
4. 呼吸・酸塩基平衡の役割とその機序を理解できる。
5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を理解できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について，生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。

《成績評価の方法》

小テスト・中間テスト・期末テスト・レポート課題等を総合的に評価する。

臨床医学に貢献できるように，高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	呼吸	呼吸運動，排気量分画，換気量
2	〃	ガス交換，ガス分析，O ₂ ・CO ₂ の運搬
3	〃	呼吸運動の調節，呼吸中枢
4	〃	肺のコンプライアンス，酸・アルカリ平衡
5	排泄	腎臓の機能，腎臓の構造
6	〃	尿の生成，尿の組成，腎単位
7	〃	腎クリアランス，腎血漿流量，糸球体濾過量
8	代謝	ATPの機能，TCA回路，基礎代謝率
9	体温	生理的体温変動の機序，体温調節中枢
10	消化	口腔内消化，咀嚼・嚥下，唾液による消化
11	〃	胃内消化，胃液の分泌調節，HClの分泌機序
12	吸収	小腸内消化吸収，膵液の分泌，胆汁の分泌
13	〃	大腸内消化吸収，大腸の運動，排便反射
14	内分泌	ホルモンの作用機序，ホルモンの分泌調整
15	〃	内分泌器官，血糖値の調節，ストレスに対する反応

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	人間発達学				
担当者氏名	山中 陽子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な各領域の発達段階における特徴を学ぶ

(※「各領域」とは、運動機能、認知機能、心理・社会性機能等を示す)

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分け説明できる
2. 発達障害について説明できる
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる

《学生の留意点》

テキストは用いません。基本的に毎回プリントを配布いたします。
講義のほか、授業内で数回の心理検査を実施する予定です。

《成績評価の方法》

期末筆記試験

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	生涯発達という考え方 発達段階と発達課題
2	発達理論	さまざまな発達理論 (ピアジェ・エリクソンなど)
3	胎 児 期	胎児の発達 子どもの行動発達
4	新 生 児 期	出生後からの発達 (愛着を中心に) 子どもの言語発達
5	乳 幼 児 期	幼児期における心理的発達
6	児 童 期 (1)	認知発達段階の把握 学習・記憶の発達
7	児 童 期 (2)	ギャング・エイジの理解 道徳的判断の発達
8	児童期 (思春期)	身体の成長と心の成長 (青年期への移行) 恋愛の発達
9	青 年 期	アイデンティティ (自我同一性) とモラトリアムの理解
10	成 人 期	成人期における発達 職業の選択 結婚と子育て
11	成人期 (中年期)	中年期危機 次世代を育てる
12	老 年 期	エイジズム 老年期の発達変化 認知症
13	発達の遅れ (1)	発達障害とは
14	発達の遅れ (2)	多種多様な発達検査
15	ま と め	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学 I				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP1 となるために本科目では健康な人の身体のしくみに関する知識を身につける。 DP2 に育つため、理学療法・作業療法の基礎技術として主要な骨指標や筋について触知する能力を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法治療技術論への学習の基礎とするために、上肢・体幹の機能解剖及び、呼吸、循環、代謝の基本的知識を習得する。

《目標行動(SBO)》

1. 関節構造や筋活動の特性を踏まえて身体運動が説明ができる。
2. 上肢・体幹の構造と運動が説明できる。
3. 運動学としての呼吸・循環・代謝の仕組みを説明できる
4. 肩関節を複合体としてとらえ、各関節の運動を説明できる
5. 肩関節安定性の因子を挙げ、説明できる
6. 肘関節・手関節を複合体としてとらえることができる

《成績評価の方法》

期末試験 筆記100%

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』。医歯薬出版。2012。
平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版。文光堂。2012。

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』。医歯薬出版。2012。
塩田悦二訳：『カパンジー機能解剖学Ⅱ』。医歯薬出版。2010。
勝田茂編著：『入門運動生理学』。杏林書院。2015。

《学生の留意点》

解剖、生理学に基づいた専門的内容が多くなる。解剖学各回の復習を欠かさず授業に臨むこと。教材室にある骨標本・筋模型を利用して、具体的に理解することにつとめること。毎回教材備品を授業開始までに準備すること必要に応じて自らの身体を実際に動かして積極的に学習すること。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を機能解剖の知識獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	運動学概要、筋骨格系における力について
2	骨学筋学総論	骨学：人体関節の基本構造と機能について、運動の軸について、副運動について
3	〃	筋学：筋の形態学、筋収縮のメカニズムについて
4	〃	筋学：筋収縮の様式と運動について
5	脊柱の機能解剖	脊柱の構造と各部位の運動学的特徴について
6	胸腰部の機能解剖	姿勢と椎間板内圧について、呼吸の種類と筋活動について、肋椎関節について
7	頸部の機能解剖	軸椎関節および環椎後頭関節の運動について、頸部の運動と筋活動について
8	運動と呼吸	運動による呼吸状態の変化について
9	運動と循環	運動による循環動態の変化について
10	肩甲帯の機能解剖	肩関節複合体について、フォースカップル機構について、肩甲上腕リズムについて（佐々木）
11	肩の機能解剖	肩関節の安定性について、機能的肢位について、ゼロポジションについて（佐々木）
12	肘・前腕の機能解剖	肘関節複合体について、生理的外反について、回内・回外の軸、前腕骨間膜の役割について
13	手・手指の機能解剖	手関節複合体について、屈筋と腱鞘、指背腱膜と伸筋について
14	運動と代謝	栄養とエネルギー代謝 栄養素、エネルギー代謝（カロリー、基礎代謝、エネルギー代謝率、METS）について（佐々木）
15	運動と代謝②	運動とエネルギー代謝について 効率、ホルモン調整、呼吸商の変化、消化機能の変化について（佐々木）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅱ				
担当者氏名	帯刀 隆之				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP1 となるために本科目では健康な人の身体のしくみに関する知識を身につける。 DP2 に育つため、理学療法・作業療法の基礎技術として主要な骨指標や筋について触知する能力を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価や治療技術論への学習の基礎とするために、理学療法士に最低限必要な「下部体幹から足部までの運動学」と「運動の中樞神経機構」を学ぶ。

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』。医歯薬出版。2017年。

平田幸男訳：『解剖学アトラス』。文光堂。2012年。

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』。医歯薬出版。2018年。

塩田悦二訳：『カバンジー機能解剖学Ⅱ下肢』。医歯薬出版。2019年。

《目標行動(SBO)》

1. 骨盤の構造と運動を説明することができる
2. 股・膝・足関節の構造と運動を説明することができる
3. 関節に係る力と安定化機構を説明することができる
4. 運動の中樞神経機構について説明できる
5. 代表的な運動制御理論について説明できる

《学生の留意点》

基幹科目の一つです。予習・復習を十分にしながら確実に理解を進めてください。また、機会毎に文章作成トレーニングを積み「文章作成力」や「表現力」も養ってください。そのためにも課題作成を活用してください

《成績評価の方法》

対面授業形式の場合：

期末試験（60％）、課題（20％）、筋解剖小テスト（20％）

オンライン授業形式の場合：

期末試験（30％）、課題（50％）、筋解剖小テスト（20％）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かし「理学療法評価や治療技術論への学習の基礎となるような運動学事項の理解」を目指す

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	骨盤の構造と運動表現_1	運動学概論再覧／骨盤の運動方向表現
2	骨盤の構造と運動表現_2	骨盤の解剖学的理解と骨盤傾斜角の評価
3	骨盤の構造と運動表現_3	骨盤の運動と姿勢との関係
4	股関節の構造と機能_1	大腿骨の解剖学的理解と股関節への組合せ
5	股関節の構造と機能_2	股関節の構造と機能／作用筋と靱帯機構
6	股関節の構造と機能_3	関節合力とテコ／股関節合力の計算
7	膝関節の構造と機能_1	膝関節の解剖学的理解と運動
8	膝関節の構造と機能_2	膝関節の安定化機構
9	膝関節の構造と機能_3	膝関節のバイオメカニクス
10	足関節・足部の構造と機能_1	足関節足部の解剖学的理解と運動
11	足関節・足部の構造と機能_2	足関節足部に特有な関節軸その運動
12	足関節・足部の構造と機能_3	足関節足部の筋解剖学／足アーチの機能
13	運動の中樞神経機構_1	運動のプランニングからプログラミングそして実行まで
14	運動の中樞神経機構_2	運動のフィードフォワードとフィードバック制御機構
15	運動の中樞神経機構_3	運動制御理論／歩行の中樞／中樞パターン生成機構(CPG)

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学				
担当者氏名	関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP2 に育つために必要なリハビリテーション医学の主な疾患概念・病態・検査・診断と治療・予防等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学・作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』、南江堂、2016年

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動(SBO)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる。
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる。
4. 各障害の特徴を列挙できる。

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭において勉強して欲しい。

《成績評価の方法》

筆記試験

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義にいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳障害1	脳卒中・頭部外傷等の障害学
2	脳障害2	急性期のリハビリテーション
3	脳障害3	慢性期のリハビリテーション
4	脊髄損傷1	病態総論、診断法、合併症
5	脊髄損傷2	急性期のリハビリテーション
6	脊髄損傷3	慢性期のリハビリテーション
7	関節リウマチ1	疾患の概要・障害像、診断と評価その1
8	関節リウマチ2	診断と評価その2、リハビリテーション
9	神経・筋疾患1	パーキンソン病、脊髄小脳変形症
10	神経・筋疾患2	多発性硬化症、ALS、筋ジストロフィー
11	骨・関節疾患	変形性関節症等
12	切断1	総論、切断と義肢
13	切断2	切断のリハビリテーション
14	循環器・呼吸器	心機能及び呼吸機能障害のリハビリテーション
15	小児リハ	小児のリハビリテーション、その他

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	青柳 圭祐				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる。
2. 代表的な心理検査の種類を列挙、その特徴と内容について説明し、実施できる。
3. 代表的な心理療法について列挙し、その特徴と内容について説明できる。

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。積極的な授業参加を期待します

《成績評価の方法》

期末試験

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方
2	心理アセスメント面接法、行動観察法	心理アセスメント面接法、行動観察法、心理検査法
3	心理検査法①	心理検査法① 性格検査（質問紙法）
4	心理検査法②	心理検査法② 性格検査（投影法）
5	心理検査法③	心理検査法③ 性格検査（作業検査法）
6	心理検査法④	心理検査法④ 知能検査（ウェクスラー式、ビネー式）
7	心理療法①	心理療法① 概論
8	心理療法②	心理療法② 精神分析療法
9	心理療法③	心理療法③ クライエント中心療法
10	心理療法④	心理療法④ 行動療法、認知行動療法
11	心理療法⑤	心理療法⑤ 自律訓練法
12	心理療法⑥	心理療法⑥ その他の心理療法
13	障害者・高齢者の心理障害の受容、その他	障害者・高齢者の心理障害の受容、その他
14	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント
15	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論				
担当者氏名	関 勝、山田 千鶴子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。 DP2- に育つためのリハビリテーション専門職として治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

利用者の充実した生活を創造するセラピストになるために、必要となる基礎的な知識と考え方を学ぶ

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる
2. リハビリテーションチームにおけるPTの役割を説明できる
3. 利用者の生活の質向上のために何が必要か具体的に考えられる
4. 多職種と連携するために必要な行動をとることができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験 50% 課題（レポート・ミニツツペーパー・自己評価） 50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容	
1	リハビリテーションの歴史と理念	定義・対称・医療と介護の区分	〔関 勝〕
2	リハビリテーションチーム	専門職の役割とチームアプローチ	〔関 勝〕
3	医学的リハビリテーションⅠ	リハビリテーションにおける評価とその意義	〔関 勝〕
4	医学的リハビリテーションⅡ	機能予後と短期・長期ゴール設定	〔関 勝〕
5	医学的リハビリテーションⅢ	病期別リハビリテーションと治療の基本概念	〔関 勝〕
6	地域リハビリテーション	医療と福祉の連携など	〔関 勝〕
7	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは	〔山田千鶴子〕
8	利用者中心のリハビリテーションⅠ	利用者の生活を考える 障害体験1	〔小宮山一樹〕
9	利用者中心のリハビリテーションⅡ	利用者の生活を考える 障害体験2	〔小宮山一樹〕
10	利用者中心のリハビリテーションⅢ	インフォームドコンセントとハラスメント	〔小島 肇〕
11	利用者中心のリハビリテーションⅣ	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
12	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士の役割と責任	〔山田千鶴子〕
13	ケーススタディ1	症例で考えるPT, OTの役割	〔山田・中村伴子〕
14	ケーススタディ2	多職種連携の実際	〔山田・川股他〕
15	セラピストの役割	利用者中心のリハビリテーションとは	〔鶴見隆正〕

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論				
担当者氏名	遠藤 敏				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	DP1 となるために本科目では他者の意見に傾聴できる力を身につける。 DP1 となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 DP2 に育つための専門職の仕事内容に関する知識を身につける。 DP2 に育つための専門職の治療・支援に関する知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

医療従事者として必要な知識および職業倫理を身につけるために、理学療法の概要や評価・治療という一連の流れを理解する。

《テキスト》

必要に応じて授業中にプリントを配布する

《参考図書》

奈良 勲編：『理学療法概論 第6版』。医歯薬出版。2014年。
 嶋田 智明編：『概説理学療法』。文光堂。2007年

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法とは何か、その概要を説明することができる。
2. 医療・福祉分野での理学療法士の役割を理解し、説明することができる。
3. 理学療法士として必要な職業倫理を述べることができる。

《学生の留意点》

理学療法とはいかなる専門職なのか、理学療法の題材を通して考えて頂きます。
 また、グループワークでの積極的な参加をお願いいたします。

《成績評価の方法》

筆記試験80%、課題20% (グループワークで提示します)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容の概論に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション
2	医療・福祉現場について	人間関係構築 専門職種について
3	理学療法と社医学の歴史	歴史的背景から学ぶこと
4	理学療法士の養成	カリキュラムについて
5	理学療法士に必要な能力	コミュニケーション能力 問題解決能力
6	理学療法士の役割とは	望まれる姿 期待される役割
7	医療従事者としての倫理	説明能力 承認確認 ハラスメント
8	医療におけるリスク管理	医療事故の要因
9	理学療法の流れ①	情報収集と評価、他職種連携
10	理学療法の流れ②	運動療法、物理療法、義肢装具療法、ADL
11	理学療法士が扱う機器	検査機器 治療機器 補助機器
12	理学療法士が関わる分野①	整形外科系運動器疾患
13	理学療法士が関わる分野②	脳神経、神経内科系疾患
14	理学療法士が関わる分野③	地域での関わり がん・終末期
15	臨床見学オリエンテーション	医療現場での学び方

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅰ				
担当者氏名	長屋 説、佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

臨床見学実習の目標を達成するために、社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、体得できる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会医学技術学院の学生である意味を理解できる。
2. 医療人としてのマナー、医療安全について理解できる。
3. 臨床見学実習を遂行するための心構えができる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。

《成績評価の方法》

提出課題 100%

(ミニッツペーパーやレポートを課します。)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コース・オリエンテーション	概要の説明とアイスブレイク 相手に興味を持つと言うこと、事柄の意味を知ろうとすること。
2	医療人としての身だしなみとは	医療人としての身だしなみとは 社医学生としてのマナーとは 授業聴講について
3	感染症について	感染の種類と対応について ～医療従事者としてのエチケットを考えてみる～
4	学校と施設	社医学を取り巻く環境を知ろう。学校と実習地、そして同窓会、職能団体とは。 病期について学ぶ (どこで働く理学療法士になりたいですか)
5	学校の備品についてその1	骨標本・筋模型の点検・整備をしながら学ぼう①
6	学校の備品についてその2	骨標本・筋模型の点検・整備をしながら学ぼう②
7	急性期で働く理学療法士	急性期の現場で働く理学療法士に実際の仕事を聞いてみよう。(外部講師)
8	回復期で働く理学療法士	回復期の現場で働く理学療法士に実際の仕事を聞いてみよう。
9	生活期で働く理学療法士	生活期の現場で働く理学療法士に実際の仕事を聞いてみよう。
10	実習前オリエンテーション1	実習とは 医療安全について (医療安全とは何を指すのか、責任はどこにあるのか) 社医学を取り巻く環境を知ろう。学校と実習地、そして同窓会
11	実習前オリエンテーション2	実習前準備
12	実習後セミナーその1	実習で得たことをまとめてみよう (失敗談・他施設の情報収集)
13	実習後セミナーその2	グループワーク
14	実習後セミナーその3	報告会・発表
15	実習後セミナーその4	臨床実習Ⅱに繋がる振り返り

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	フィジカルアセスメント				
担当者氏名	森田 浩章、長屋 説				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

対象者に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定（血圧・脈拍測定）が自ら実践できるようになるために、解剖生理での裏付けや結果の解釈を系統的に学習する。

《テキスト》

改訂新版 筋骨格系の触診マニュアル 第2版

《参考図書》

運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢・下肢）

《目標行動(SBO)》

1. 解剖・生理学の知識を実技結果と結びつけることができる。
2. 対象者に対して視診を行い、考察ができる。
3. 対象者に対して触診を行い、考察ができる。
4. 対象者に対して聴診を行い、考察ができる。
5. 基本的なバイタルチェックを実施できる。

《成績評価の方法》

実技試験 70%
筆記試験 30%

《学生の留意点》

講義前に実技のできる服装に着替え、必要物品を準備すること。

積極的に参加し技術習得に努めること（私語・スマートフォン操作等、講義・技術習得の妨げとなる行為があった場合は欠席扱いとし、退室を命ずることがある）。知識面・実技の復習を必ず行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション・バイタルサイン①	オリエンテーション、バイタルサインとは（視診・触診・聴診・血圧・脈拍）。
2	バイタルサイン②	実技（脈拍、血圧測定）
3	触診（骨）①	実技（ランドマークの触診）
4	触診（骨）②	実技（ランドマークの触診）
5	触診（骨）③	実技（ランドマークの触診）
6	身体測定①	実技（四肢長測定）
7	触診（筋）①	上肢の筋
8	触診（筋）②	上肢の筋
9	触診（筋）③	上肢の筋
10	触診（筋）④	下肢の筋
11	触診（筋）⑤	下肢の筋
12	触診（筋）⑥	下肢の筋
13	触診（筋）⑦	体幹の筋
14	触診（筋）⑧	頸部・頭部の筋
15	身体測定②	実技（周径測定）

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I a				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価の総論を踏まえ、信頼性のある理学療法評価を実施できるようになるため、関節可動域測定の意義・目的・方法を説明することができ、実施することができる

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

1. 青木主悦：『ROMナビ』。有限会社ラウンドフラット。2013年
2. 中村隆一 斎藤宏 長崎浩 著：『基礎運動学 第6版 補訂』。医歯薬出版株式会社。2018年。
3. 隈元庸夫編集：『臨床ROM 測定からエクササイズまで』。ヒューマンプレス。2017年。

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法評価の目的と意義・過程を説明できる
2. 関節可動域測定の定義・目的・過程を説明できる
3. 実施に当たり、適切なオリエンテーションができる
4. 関節可動域測定に必要なランドマークの触診ができる
5. 基本軸・移動軸を説明できる
6. 各関節の最終域感の確認と、制限因子の予測ができる

《学生の留意点》

実技が中心となる科目で、動きやすい格好で臨んでください。白衣着用、名札の着用など、臨床現場で求められることを意識して臨んで欲しいと思います。感染対策をした上での貴重な実技時間となります。1コマ1コマ大切にいきましょう。

《成績評価の方法》

期末試験 実技試験(60%)、筆記試験(40%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は佐々木亮平(理学療法士)が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法評価とは 関節可動域測定・総論	理学療法評価の目的と意義、過程について 関節可動域を評価する意義、目的、過程 関節制限・最終域感について
2	関節可動域測定・各論 肘関節	オリエンテーション、用手接触について 肘関節 屈曲・伸展
3	関節可動域測定・各論 肩関節	肩関節 屈曲・伸展・内転・外転
4	関節可動域測定・各論 肩関節②	肩関節 外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展
5	関節可動域測定・各論 肩甲帯	肩甲帯 屈曲・伸展・挙上・下制
6	関節可動域測定・各論 手関節	橈骨手根関節 掌屈・背屈・橈屈・尺屈
7	関節可動域測定・各論 前腕 股関節	前腕 回外・回内 股関節 屈曲・親展
8	関節可動域測定・各論 股関節②	股関節 内転・外転・内旋・外旋
9	関節可動域測定・各論 膝関節 足関節	膝関節 屈曲・伸展 足関節 背屈・底屈
10	関節可動域測定・各論 足関節② 足部	足関節 内転・外転 足部 外がえし・内がえし
11	関節可動域測定・各論 足趾	中足趾節間関節・近位趾節間関節・遠位趾節間関節 屈曲・伸展
12	関節可動域測定・各論 手指 足趾②	中手指節間関節・近位指節間関節・遠位指節間関節 屈曲・伸展・外転・内転
13	関節可動域測定・各論 頸部 胸腰部	頸部 屈曲・伸展・回旋・側屈 胸腰部 屈曲・伸展・回旋・側屈
14	関節可動域測定・各論 その他の測定方法	メジャーを用いた測定、三関節角度計の紹介
15	まとめ	テストについて 動作・運動と関節可動域の関係

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I b				
担当者氏名	藤川 明代、林 佑樹				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

徒手筋力検査を実施するために徒手筋力検査の意味を理解し実施できる。

《テキスト》

1. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著, 津山直一 訳：
『新・徒手筋力検査法 原著第10版』。協同医書出版社。2020年。

《参考図書》

青木主悦：『ROMナビ』。有限会社ラウンドフラット。2013年。
中村利考：『標準整形外科学 第13版』。医学書院。2016年。

《目標行動(SBO)》

1. 定義・目的・原則を説明できる
2. 測定を実施する際に、適切なオリエンテーションが行える。
3. 測定時の代償動作を抑制が適切に行えるような肢位を取らせ、正しい固定にて徒手抵抗を加えることができる
4. 上下肢・体幹の徒手筋力検査において各関節運動方向での主動作筋・測定肢位が言える

《成績評価の方法》

徒手筋力検査(筆記・実技)によって評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の両方に満たないものは再試験を課す。

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください。
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能なようにTシャツ・短パン)に着替えてください。
3. 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行ってください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	徒手筋力測定	徒手筋力検査総論：意義・目的・原則
2	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢
3	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢
4	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢
5	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢
6	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢
7	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢・上肢
8	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢
9	徒手筋力測定	徒手筋力検査：下肢・頸部・体幹
10	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢
11	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢
12	徒手筋力測定	徒手筋力検査：上肢
13	徒手筋力測定	徒手筋力検査法：頸部・体幹
14	徒手筋力測定	筋力と動作についての演習
15	徒手筋力測定	筋力と動作についての演習

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学Ⅰ				
担当者氏名	長屋 説				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

対象者に対して、より各種物理療法を的確に実施できるようになるために、生理的作用とその効果、および実施する上での禁忌・注意事項を理解し、健常人に対して安全に実施する。

《テキスト》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト：改訂第2版』. 南江堂. 2014年.

《参考図書》

Michelle H. Cameron編著, 渡部一郎 訳：『EBM物理療法 原著第3版』. 医歯薬出版. 2015年.

《目標行動(SBO)》

1. 物理療法を実施する上での適応, 禁忌, 注意事項を説明できる.
2. 各種物理的刺激による生理的作用と効果について説明できる.
3. 適応となる症状を理解し, どのように作用するか説明できる.
4. 物理療法(理学療法)実施する上で一連の流れを説明できる.
5. 各種物理療法の実施手順, 方法を理解し, 実施できる.

《学生の留意点》

物理療法実技は動きやすい服装で参加してください.
本講義は、2年次の物理療法Ⅱと系統立てて行われます.
寒冷療法・温熱療法実技時にはワークシート作成が授業課題となります.

《成績評価の方法》

中間試験40% 期末試験60%
提出課題(ワークシート) 成績加算あり

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し, その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている.

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	コースオリエンテーション(物理療法学の定義・授業構成)
2	物理療法とは	物理療法の適応と禁忌 ～物理療法はどんな時に使用するのか～
3	疼痛と理学療法	疼痛の定義と意義 ～疼痛の評価～
4	炎症と理学療法	急性炎症および組織の修復過程 ～問診方法と炎症の5徴候～
5	寒冷療法その1	寒冷療法(アイスパック・氷嚢・クリッカー)の理論
6	寒冷療法その2	寒冷療法(アイスパック・氷嚢・クリッカー)の実際
7	急性期の理学療法	急性期の理学療法まとめ
8	温熱療法その1	温熱療法(ホットパックとパラフィン)の理論
9	温熱療法その2	温熱療法(ホットパックとパラフィン)の実際
10	牽引療法その1	牽引療法の理論
11	牽引療法その2	牽引療法の実際
12	マッサージ療法その1	マッサージ療法の理論
13	マッサージ療法その2	マッサージ療法の実際
14	浮腫の理学療法	浮腫に対する理学療法(弾性包帯法・テーピング)
15	関節可動域制限の理学療法	関節可動域制限に対する理学療法(CPM)

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	生活環境支援理学療法学				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	講義	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

自立支援の為に、車椅子・福祉機器・住宅改造・周辺環境を含めた内容を理解し、すべての人が住みやすいよう理学療法の観点から学ぶ。

《テキスト》

国際福祉機器展H.C.R. 2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本
基本動作編・住宅改修編・自立支援編

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 車椅子の使用目的・機能を説明でき、操作方法を指導できる。
2. 福祉機器の目的・機能を説明でき操作方法を指導でき、メンテナンスを経験する。
3. 車椅子のシーティングシステムを対象者に適用させる経験をする。
4. 住環境および自宅周辺環境について説明することができる。

《学生の留意点》

- ・人の支援をする立場となり必要な人に必要なものを提供できるよう考えを深めてほしい。
- ・グループワークを行うことが多いが積極的に患者を支援する立場となり意見を言ってほしい。

《成績評価の方法》

提出物(4割)・授業内でのグループワークでの取り組み(4割)・定期試験(2割)によって成績を評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	福祉機器を知る	オリエンテーション 福祉器具とは何か
2	国際福祉機器展(説明)	国際医療福祉機器展に関するオリエンテーション
3	国際福祉機器展(参加)	国際医療福祉機器展参加(午前 東京ビックサイト)
4	国際福祉機器展(参加)	国際医療福祉機器展参加(午前 東京ビックサイト)
5	国際福祉機器展(参加)	国際医療福祉機器展参加(午前 東京ビックサイト)
6	国際福祉機器展(振り返り)	国際医療福祉機器展振り返り・発表
7	身近な福祉機器について	身近な福祉機器を模索する(バリアと健常者に対して)①
8	身近な福祉機器について	身近な福祉機器を模索する(バリアと健常者に対して)②
9	健常者と一番身近な住宅環境	自宅を振り返りバリアを模索する(バリアと健常者に対して)①
10	健常者と一番身近な住宅環境	自宅を振り返りバリアを模索する(バリアと健常者に対して)②
11	環境設定について	リフト・ベッドについて目的・機能・操作方法について知る①
12	環境設定について	車いすについて目的・機能・操作方法について知る①
13	環境設定について	車いすについて目的・機能・操作方法について知る②
14	移動	福祉車両について目的・機能・操作方法について知る①
15	移動	福祉車両について目的・機能・操作方法について知る②

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習				
担当者氏名	長屋 説、佐々木 亮平				
授業方法	実習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法士としての役割を知り、今後の学習意欲を高めるために、臨床現場の見学実習を通じて理学療法士の専門性を学ぶ。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 実習施設の特徴や役割を説明できる。
2. 実習施設のリハビリテーション全体における位置づけ、理学療法・作業療法部門の組織、役割を説明できる。
3. 関連他部門（職種）の役割と連携について説明できる。
4. 基本的なビジネスマナーを実施できる。
5. 医療安全、実習施設規則、個人情報保護を遵守できる。
6. 実習で得た知識や内容を臨床実習Ⅱに向けて共有出来る。

《学生の留意点》

何を見学するのかを明確にし、理学療法士と対象者の関わり方がどのように行われていたのか、対象者の困りごとは何なのかを見学してくること。また、その上であいさつや質問などを自ら積極的にできるように心がけること。

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナーを総合的に勘案して評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	施設の特徴を知る。理学療法士の役割を知る。	5日間の臨床見学実習
2	共有	実習後セミナー
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論Ⅱ				
担当者氏名	森田 浩章、山本 千夏				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

医療人として対象者や他職種との信頼関係を構築し、適切な情報収集や理学療法評価のために、医療現場におけるコミュニケーション能力を習得する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法の展開に必要な情報を列举することが出来る。
2. 対象者から必要な情報を収集ができる。
3. 対象者の状況を配慮した言葉かけ（言語コミュニケーション）ができる
4. 対象者に対して適切な姿勢・態度・距離感（非言語コミュニケーション）がとれる

《学生の留意点》

医療現場での他職種および対象者とのコミュニケーションを十分に習得するために、積極的な参加をのぞむ。
また、授業時間内に自身の内観のために動画撮影を各自で行うことがある。

《成績評価の方法》

課題提出（70％）、小テスト・発表（30％）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション 情報収集①	医療現場で得られる情報の種類とその活用
2	情報収集②	情報をどこから得るか。 他職種から得られる情報
3	情報収集③	対象者から情報を引き出す。 問診のスキル
4	問診の実際	問診場面の演習
5	リハビリテーション場面 のコミュニケーション	ケーススタディとグループワーク
6	リハビリテーション場面 のコミュニケーション	ケーススタディとグループワーク
7	リハビリテーション場面 のコミュニケーション	ケーススタディとグループワーク
8	リハビリテーション場面 のコミュニケーション	ケーススタディとグループワーク
9	リハビリテーション場面 のコミュニケーション	ケーススタディとグループワーク
10	リハビリテーション場面 のコミュニケーション	ケーススタディとグループワーク
11	検査測定場面でのコミュニケーション	検査測定場面での患者対応と配慮
12	治療場面でのコミュニケーション	治療場面での患者対応と配慮
13	検査の実践とコミュニケーション①	1年生との合同実技演習
14	検査の実践とコミュニケーション②	1年生との合同実技演習
15	合同演習の振り返り	合同演習の振り返り

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習				
担当者氏名	小宮山 一樹、佐々木 亮平、沼尾 拓				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP2 に育つための基礎的な知識を身につける。			

《一般教育目標 (GIO)》

ヒトの運動を運動学的に理解するために、歩行を基に運動学の知識の応用を図る

《テキスト》

姿勢・動作・歩行分析 (PT・OT ビジュアルテキスト) 羊土社

《参考図書》

中村隆一他：『基礎運動学第6版』。医歯薬出版株式会社、2003年。

《目標行動 (SBO)》

- ・運動の際の重心移動を説明できる。
- ・重心移動の際の床反力を説明できる。
- ・床反力を得るための関節運動を説明できる。
- ・関節を動かすための筋収縮を説明できる。

《学生の留意点》

各単元で理解した内容を文章で説明する課題を課します。しっかりとメモを取りながら授業に参加してください。また、歩行の測定後にSBOに沿った考察を書いてもらいます。

《成績評価の方法》

課題50%、筆記試験50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	重力のある世界で運動するための重心・床反力・関節運動・筋活動の関係 (考え方、分け)
2	歩行の基礎知識	用語、歩行相
3	歩行時の重心移動	左右・上下への重心移動 1 - 3 (沼尾)
4	歩行時の床反力	前後・左右・上下分力
5	歩行時の関節運動	足関節・膝関節・股関節・肩関節の関節運動 (歩行測定1/3) 4, 5 (佐々木)
6	歩行時の筋活動	足関節・膝関節の筋活動 (歩行測定1/3)
7	歩行時の筋活動	股関節の筋活動 (歩行測定1/3) 6, 7 (小宮山)
8	まとめ	(沼尾)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	病理学概論				
担当者氏名	福井 謙二				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP2 に育つために病理学の主な疾患の病態を組織像と共に基礎的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらにどのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。病理学はしばしば基礎医学と臨床医学の境界領域に位置づけられるが、この授業で習得した知識や考え方が臨床医学の場で発展されることを目指す。

《テキスト》

系統看護講座 病理学 第6版 ～疾病のなりたちと回復の促進 [1], 医学書院

《参考図書》

必要に応じて紹介します。

《目標行動(SBO)》

1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し説明できる。
2. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて説明できる。

《学生の留意点》

- ・すべてオンデマンド授業の予定です。

《成績評価の方法》

筆記試験 (100%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、外部講師の福井先生（医師）が担当し、実務経験を活かした授業としています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	病理学とは, 病理診断, 病因論	
2	先天異常, 奇形	
3	退行性病変	
4	進行性病変	
5	循環障害	
6	炎症	
7	免疫, 感染症	
8	腫瘍, 死因統計	
9	循環器系の疾患	
10	血液・造血器系の疾患	
11	呼吸器系の疾患	
12	消化器系の疾患	
13	腎・泌尿器系, 生殖系, 乳腺の疾患	
14	神経系の疾患	
15	運動器系の疾患	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学				
担当者氏名	栗崎 博司、板東 充秋				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP2 に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』，南江堂，2017

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）
2	〃	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
3	各論	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
4	〃	高次脳機能障害
5	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
6	症候学	意識障害／脳神経／運動の経路
7	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
8	〃	錐体外路症状／自律神経／異常歩行
9	〃	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
10	〃	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
11	〃	脳腫瘍／感染
12	〃	筋疾患／重症筋無力症
13	〃	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
14	〃	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
15	〃	小児先天性疾患

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学Ⅰ				
担当者氏名	下河辺 仁				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP2 に育つために必要な整形外科学の主な疾患概念・病態・整形外科学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

運動器系理学療法を理解するために、整形外科の主要疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リハビリテーションについて理解する。

《テキスト》

松野丈夫：『標準整形外科学』第14版。医学書院。

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

1. 骨、関節、筋、神経の解剖学の知識を理解できる。 2. 整形外科疾患の診断方法、検査方法を理解できる。 3. 保存的治療と手術的治療を説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験50%、課題50%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、医師と理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概論①	整形外科学の歴史、概論
2	概論②	整形外科学の歴史、概論
3	基礎①	整形外科学基礎科学、骨、関節、筋、神経
4	基礎②	整形外科学基礎科学、骨、関節、筋、神経
5	総論①	整形外科診断学総論、整形外科治療総論
6	総論②	整形外科診断学総論、整形外科治療総論
7	疾患総論Ⅰa	感染症、関節リウマチとその類縁疾患
8	疾患総論Ⅰb	感染症、関節リウマチとその類縁疾患
9	疾患総論Ⅱa	慢性関節疾患、四肢循環障害
10	疾患総論Ⅱb	慢性関節疾患、四肢循環障害
11	疾患総論Ⅲ	先天性疾患、代謝性疾患
12	疾患総論Ⅳa	骨腫瘍・軟部腫瘍、神経疾患・筋疾患
13	疾患総論Ⅳb	骨腫瘍・軟部腫瘍、神経疾患・筋疾患
14	整形外科理学療法①	
15	整形外科理学療法②	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学Ⅱ				
担当者氏名	下河辺 仁				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		p2 に育つために必要な整形外科学の主な疾患のリハビリテーションについて基礎的知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

運動器系理学療法を理解するために、整形外科の主要疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リハビリテーションについて理解する。

《テキスト》

松野丈夫：『標準整形外科学』第14版。医学書院。

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 各疾患の発生要因を理解できる。 2. 各疾患の代表的な疾患名を列挙し、症状について説明できる。 3. 各疾患の診断方法、治療方法を説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験50%、課題50%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、医師と理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	疾患各論Ⅰa	肩、肘、手関節および手指
2	疾患各論Ⅰb	肩、肘、手関節および手指
3	疾患各論Ⅱa	脊椎および体幹
4	疾患各論Ⅱb	脊椎および体幹
5	疾患各論Ⅲa	股関節
6	疾患各論Ⅲb	股関節
7	疾患各論Ⅳa	膝、足関節および足指
8	疾患各論Ⅳb	膝、足関節および足指
9	外傷学Ⅰa	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論
10	外傷学Ⅰb	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論
11	外傷学Ⅱ	骨折、脱臼
12	外傷学Ⅲa	脊髄損傷、末梢神経障害
13	外傷学Ⅲb	脊髄損傷、末梢神経障害
14	整形外科理学療法③	
15	整形外科理学療法④	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学 I				
担当者氏名	木下 潤一朗				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP2 に育つために必要な臨床内科学の主な疾患概念・病態・内科学的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

理学療法・作業療法へ展開するために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療を知る

《テキスト》

中島雅美 編：『PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート』、医歯薬出版、2003年。

《参考図書》

奈良 勲 監：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』第2版、医学書院、2014年。

《目標行動(SBO)》

1. 主な循環器疾患、代謝性疾患、消化器疾患、呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
2. 内分泌疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
3. 泌尿器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
4. 血液・免疫疾患を列挙でき、特徴について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

レポート

《実務経験のある教員による科目》

当科目は医師が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	消化器疾患1	消化管系
2	消化器疾患2	肝胆膵
3	代謝性疾患1	糖代謝障害(糖尿病)
4	代謝性疾患2	糖代謝障害(低血糖)・脂質代謝障害
5	代謝性疾患3	痛風・骨粗鬆症
6	循環器疾患1	循環器の解剖生理学・心不全
7	循環器疾患2	虚血性心疾患・心弁膜疾患
8	循環器疾患3	不整脈・心筋疾患・心膜炎・動脈疾患・高血圧
9	呼吸器疾患1	呼吸器の解剖生理学・閉塞性肺疾患
10	呼吸器疾患2	拘束性肺疾患・感染症・腫瘍性疾患
11	内分泌疾患	
12	腎・泌尿器疾患	
13	血液・免疫疾患	
14	総合討議	
15	〃	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅱ				
担当者氏名	遠藤 敏				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP2 に育つために必要な臨床内科学(老年学・小児科学)の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的変化や老年者の疾患の特徴について学ぶ。理学療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

大村尉義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』。医学書院。2014
日本老年医学会編：『老年医学テキスト3版』。MEDICALVIEW。2013

《目標行動(SBO)》

1：高齢者の特徴と医療・福祉政策が言える 3：老化と加齢、老年症候群の特徴を言える 4：高齢者の機能・生活評価の説明ができる 1. 先天異常について説明できる。2. 新生児の特徴について説明できる。3. 感染症、または予防接種の種類を列挙できる。4. 小児の発達過程を説明できる。5. 小児保健について説明できる。6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる。

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしてほしい

《成績評価の方法》

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
4	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
5	高齢者の生理学的特徴1	高齢者の生理学的特徴（資格、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器）
6	高齢者の生理学的特徴2	高齢者の生理学的特徴（呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器）
7	フレイルとロコモティブ・シンドローム	フレイルとロコモティブ・シンドロームの理解
8	高齢者の主な疾患	高齢者における、特に重要な疾患
9	認知症の理解	認知症特有の症状の理解
10	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
11	小児の疾病 先天異常	〃
12	〃	〃
13	小児の疾病 感染症	〃
14	〃	〃
15	小児の疾病と障害 保健	〃

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	社会医学				
担当者氏名	小林 規彦				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

医療職である療法士としてプライマリヘルスケアを理解するために、社会医学の概要について学ぶ。

《テキスト》

『予防と産業の理学療法』，南江堂，2020年

《参考図書》

授業内に提示する

《目標行動(SBO)》

- ・社会医学の概要を説明できる。
- ・国際的な流れと国内の動きを理解できる。
- ・理学療法の関与を説明できる。

《学生の留意点》

グループワークへの積極的参加が望まれる。

※なお、状況に応じた対応をはかる必要がある観点から、事前準備等の必要が生じた場合は指示するので留意する。

《成績評価の方法》

課題提出

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、実務経験ならびに当該分野専門教育経験のある講師が担当している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	社会医学とは
2		社会環境と健康
3		疫学と予防医学
4		生活習慣と疾病
5		感染症対策
6		地域保健
7		産業保健
8		保健・医療・福祉と介護制度
9		国際保健
10		臨床研究と医の倫理
11		健康の社会的決定要因
12		社会医学とリハビリテーション
13		社会医学の中の理学療法Ⅰ
14		社会医学の中の理学療法Ⅱ
15		まとめ

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床運動学				
担当者氏名	中山 雅和				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		DP2 に育つための基礎的な知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する。

《テキスト》

PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 羊土社 (5000円)

《参考図書》

観察による歩行分析 医学書院 (5000円)
介護にいかすバイオメカニクス 医学書院 (4095円)

《目標行動(SBO)》

1. 姿勢、動作の観察と分析について、評価全体の中の位置づけを説明できる。
2. 姿勢、動作の観察と分析の目的と方法が説明できる。
3. 姿勢・動作を観察し、運動学的知識や用語を用いて記述できる。
4. 各疾患における特徴的な姿勢・動作を説明できる。
5. 動作分析の結果から機能障害と社会的不利を予測することができる。

《成績評価の方法》

課題50%、期末試験50%

《学生の留意点》

- ・演習時は動作観察し易い服装に着替えること。
- ・講義の進捗状況によって単元が入れ替わることがあります。
- ・演習時は能動的に学習を実施し、協同学習者とともにより良い学びとなるよう努力すること。
- ・講義内外に積極的に観て、考えて、書くことが上達に繋がります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を姿勢や動作の観察・分析のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	動作観察・分析の目的と方法, 動作分析に必要な知識、技術
2	姿勢の名称・姿勢観察と分析①	姿勢の名称を知る/座位姿勢観察と分析
3	姿勢観察と分析②	立位姿勢観察と分析
4	起き上がり動作観察と分析①	健常者の起き上がり動作
5	起き上がり動作観察と分析②	片麻痺患者やTHA術後を想定した起き上がり
6	立ち上がり動作観察と分析①	健常者の立ち上がり動作
7	立ち上がり動作観察と分析②	片麻痺患者やTHA術後を想定した立ち上がり動作
8	健常者の歩行観察	正常歩行を知る
9	異常歩行観察と分析①	
10	異常歩行観察と分析②	
11	異常歩行観察と分析③	
12	動作分析演習①	
13	動作分析演習②	
14	動作分析演習③	
15	動作分析演習④	

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅱ				
担当者氏名	森田 浩章、山本 千夏				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	DP1 となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 DP2 に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 DP3 に育つために実習施設の理念と組織および運営について理解する。 DP4 に育つためにプロフェッショナルリズムを考察する。				

《一般教育目標(GIO)》

地域リハビリテーション見学と検査測定実習の目標を達成するために、今までの学修を振り返り、地域包括ケアシステムを概観し、かつ、検査測定技術を復習して、プロフェッショナルリズムを実践的に学習し、事後に振り返りを図ること。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

- ・地域包括ケアシステムの概要を理解できる。
- ・見学施設のミッションと組織を理解できる。
- ・基本的なビジネスマナー（挨拶/報告連絡相談/コミュニケーション）を想起し、模倣できる。
- ・医療安全、個人情報保護について理解できる。
- ・アンプロフェッショナルリズムを考察できる。
- ・基本的な「検査測定」を学生間で実施できる。

《学生の留意点》

検査測定技術については前年度評価学で学んだ内容を復習し、さらなる技術向上に努めること。
また、対象者に対して適切な手技が行えるよう、ロールプレイでは医療従事者としての自覚を持って積極的に取り組むこと。

《成績評価の方法》

実技試験（100%）

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション・地域包括ケアシステム	
2	ビジネスマナー・医療安全	
3	診療記録・個人情報保護	
4	検査結果の記載方法	
5	検査測定技術①	四肢長・周径
6	〃	〃
7	検査測定技術②	ロールプレイによるROM
8	〃	〃
9	検査測定技術③	ロールプレイによるMMT
10	〃	〃
11	検査測定技術④	ロールプレイによる四肢長・周径
12	〃	〃
13	検査測定技術⑤	ロールプレイによる総合演習
14	〃	〃
15	まとめ	

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅲ				
担当者氏名	森田 浩章、山本 千夏				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

評価実習の目標を達成するために、評価技術/臨床推論/プロフェッショナリズムを実践的に学習し、事後に振り返りを図ること。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

- ・地域包括ケアシステムの概要を理解できる。
- ・見学施設のミッションと組織を理解できる。
- ・基本的なビジネスマナー（挨拶/報告連絡相談/コミュニケーション）を想起し、模倣できる。
- ・医療安全、個人情報保護について理解できる。
- ・アンプロフェッショナリズムを考察できる。
- ・基本的な「検査測定」を学生間で実施できる。

《学生の留意点》

評価実習に向けての演習となるため、検査・測定方法の予習・復習を必ず行うこと。また、臨床推論学習に必要な基礎科目も適宜確認・復習することが望ましい。

《成績評価の方法》

課題・レポート（50％）、実技試験（50％）

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	v	
2	評価実技①	
3	評価実技②	
4	評価実技③	
5	疾患別評価①	
6	疾患別評価②	
7	疾患別評価③	
8	疾患別評価④	
9	疾患別評価⑤	
10	疾患別評価⑥	
11	疾患別評価⑦	
12	疾患別評価⑧	
13	症例レポート①	
14	症例レポート②	
15	症例レポート③	

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱa				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	DP1 となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 DP1 となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 DP2 に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 DP2 に育つために理学療法評価学に評価技術を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を実施できる。

《テキスト》

1. 鈴木則宏編：『神経診察クローズアップ』：MEDICAL VIEW

《参考図書》

1. 田崎義昭 他著：『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』：南山堂：2016
2. 医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』：メディックメディア：2017

《目標行動(SBO)》

1. 各検査の定義・目的・原則を説明できる。
2. 各検査の適切なオリエンテーションができる。
3. 結果の記録方法、測定機器を説明、使用できる。
4. 検査時に適切な肢位にさせ、適切な抵抗・刺激を与えられる。

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください。
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能なようにTシャツ・短パン)に着替えてください。
3. 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行ってください。

《成績評価の方法》

神経学的検査(筆記・実技)によって評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の両方に満たないものは再試験を課す。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神経学的検査とは 麻痺の分類 中枢神経・末梢神経
2	意識障害	意識障害の診かた
3	感覚検査	感覚検査の意義
4	感覚検査	感覚検査の意義
5	感覚検査	感覚検査の実技(触覚・痛覚)
6	感覚検査	感覚検査の実技(触覚・痛覚)
7	感覚検査	感覚検査の実技(温度覚・深部覚・二点識別覚・足底触圧覚)
8	感覚検査	感覚検査の実技(温度覚・深部覚・二点識別覚・足底触圧覚)
9	反射検査	反射理論・反射検査の意義と方法
10	反射検査	反射理論・反射検査の意義と方法
11	反射検査	反射検査実技
12	反射検査	反射検査実技
13	運動器系の診かた	筋の診かた
14	運動器系の診かた	筋緊張 筋委縮実技
15	運動器系の診かた	筋緊張 筋委縮実技

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱb				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 DP1 となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 DP2 に育つために専門職として障害者の診方を身につける。 DP2 に育つために理学療法評価学に評価技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を実施できる。

《テキスト》

鈴木則宏編：『神経診察クローズアップ』：MEDICAL VIEW

《参考図書》

1. 田崎義昭 他著：『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』：南山堂：2016
2. 医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』：メディックメディア：2017

《目標行動(SBO)》

1. 各検査の定義・目的・原則を説明できる
 2. 各検査の適切なオリエンテーションを実施し、一般的な測定手順、注意点、リスクを説明できる
 3. 検査結果の記録方法、測定器具の使用方を説明、使用できる
 4. 各神経学的検査と障害・疾患の関係、神経解剖・生理学的背景を説明できる
 5. 検査時、適切な肢位にて、適切な抵抗/刺激を与えることがで
- 《成績評価の方法》
筆記・実技試験によって評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%に満たないものは再試験を課す。

《学生の留意点》

解剖学・運動学・生理学の知識が前提となるので十分復習しておくこと。
実技は動きやすい服装（Tシャツ・短パン）に着替えること。
数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	コースオリエンテーション、神経学検査の基礎知識
2	協調性検査	協調性検査の方法と手順
3	協調性検査	協調性検査の方法と手順
4	片麻痺機能検査	片麻痺の病態
5	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査
6	脳神経検査	脳神経検査の方法と手順
7	脳神経検査	脳神経検査の方法と手順
8	姿勢反射・バランス検査	姿勢反射検査とは、バランスの定義
9	姿勢反射・バランス検査	姿勢反射・バランス検査（SPPB, TUG, BBS, FRT, 他）
10	姿勢反射・バランス検査	姿勢反射・バランス検査（SPPB, TUG, BBS, FRT, 他）
11	高次脳機能検査 認知症	高次脳機能障害、認知症の診かた
12	意識障害	意識障害の診かた
13	症例検討	症例検討演習
14	症例検討	症例検討演習
15	症例検討	症例検討演習

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅲ				
担当者氏名	山本 千夏、森田 浩章				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

一般目標：妥当な理学療法評価を実施するために、画像情報をはじめとする医学検査情報を理解すること。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

宮越浩一編：『画像評価』。医学書院。2021。

《目標行動(SBO)》

画像情報、血液検査、生理検査を理解できる。

《学生の留意点》

安全な理学療法を遂行する上で必須の情報である画像、血液検査、生理検査を理解することは、病態の理解や理学療法の効果判定に欠かせません。解剖学、生理学、病理学、臨床医学の復習をしながら、学修をすすめてください。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，小テスト（6回）30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	画像評価の意義、画像検査法
2	正常解剖①	脳、脊椎、胸部、上肢
3	正常解剖②	骨盤、股関節、下肢
4	中枢神経系疾患①	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、頭部外傷、硬膜下血腫、正常圧水頭症
5	中枢神経系疾患②	脳腫瘍、中枢神経の感染症、神経変性疾患、認知症、脱髄疾患、脳性麻痺
6	運動器系疾患①	脊椎
7	運動器系疾患②	上肢
8	運動器系疾患③	骨盤・下肢
9	呼吸器・循環器系疾患①	肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、気胸
10	呼吸器・循環器系疾患②	心不全、大動脈瘤・大動脈解離、深部静脈血栓症
11	血液検査①	肝臓系検査、腎臓系検査、尿酸
12	血液検査②	脂質系検査、糖代謝系検査、血球系検査、感染症系検査
13	生理検査①	超音波検査、呼吸機能検査、心電図
14	生理検査②	筋電図、基礎代謝、脳波検査
15	まとめ	

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法臨床推論				
担当者氏名	和島 英明				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GI0)》

妥当性のある理学療法を実施するために、医療面接や理学療法評価（各種検査・測定）の結果を元に、統合と解釈を行い、理学療法上の問題点を抽出し、理学療法プログラムを立案する一連の臨床思考過程を学ぶ。

《目標行動(SBO)》

- 1) 理学療法評価プロセスについて説明することができる。
- 2) 統合と解釈を文章化することができる。
- 3) 統合と解釈から、ICFに基づいて問題点を整理できる。
- 4) 各種疾患の病態を理解するとともに、それらの問題点（障害構造）を理解することができる。
- 5) 授業内で提示された疾患について、レジюмеをまとめることができる。

《成績評価の方法》

課題 5 つ (20点×5＝100点)

《テキスト》

なし（配付資料を提示します）

《参考図書》

- 1) ゴルドマスターテキスト 理学療法評価学, メジカルビュー
- 2) 理学療法評価学 改定第6版, 金原出版
- 3) リハビリテーション基礎評価学 第2版, 羊土社
- 4) エッセンシャルキネシオロジー, 南江堂

《学生の留意点》

- ・本科目は、理学療法士の臨床思考や評価プロセスについて理解することが最大のポイントです。
- ・評価学関連、臨床医学関連の授業内容を振り返りながら、臨床思考を深めてください。
- ・後期科目のため、コロナの状況に応じて対面もしくはオンデマンド授業のどちらかです。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、和島（内部教員、理学療法士）が担当し、実務経験をいかした授業としています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	
2	評価の進め方	トップダウン評価過程、ボトムアップ評価過程
3	動作分析①	健常者の動作分析
4	動作分析②	疾患のある患者さんの動作分析
5	ICF	活動制限と機能障害の関係、問題点抽出方法
6	統合と解釈①	問題点抽出につながる臨床思考
7	統合と解釈②	問題点抽出につながる臨床思考
8	医療面接と情報収集	開かれた質問、閉じた質問、他
9	疾患別問題点①	脊椎圧迫骨折の病態と理学療法上の問題点
10	疾患別問題点②	変形性股関節症の病態と理学療法上の問題点
11	疾患別問題点③	関節リウマチの病態と理学療法上の問題点
12	疾患別問題点④	脳卒中片麻痺の病態と理学療法上の問題点
13	疾患別問題点⑤	パーキンソン病の病態と理学療法上の問題点
14	レジюме作成と発表① (1組)	提示症例のレジюме作成＋発表
15	レジюме作成と発表② (2組)	提示症例のレジюме作成＋発表

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP2 に育つために運動療法技術を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法治療学を発展させるために、理学療法の主要な治療法である運動療法を習得する。

《テキスト》

市橋則明編集：『運動療法学～障害別アプローチの理論と実際～第2版』．文光堂．2018．

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 運動療法の効果を上げることができ、中止基準を説明できる
2. ストレッチングを施行できる
3. 原理原則に沿った筋力増強練習を施行できる
4. 全身持久力と局所持久力に対する運動療法を施行できる
5. 筋緊張を落とし、リラクゼーションさせることができる
6. 理想的なアライメントを理解し、姿勢誘導できる

《学生の留意点》

皆さんにとって初めての治療学になります。治療に必要なことは理論と技術です。治療をする意味から始まり、どの様に治療すればよいのか、どの様に行うのかを皆で考えていきましょう。理論を覚える時間と、実技の時間に分かれていきます。実技時間は感染対策としてのマスクやメガネの着用、白衣を忘れずに準備してきてください。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)・実技試験(60%)にて評価
100%のうち60%に届かない場合再試験該当となる

《実務経験のある教員による科目》

当科目は沼尾拓、佐々木亮平（理学療法士）が担当し、その実務経験を治療学の知識・技術獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法士の治療	他職種の治療、理学療法士の治療 運動療法とは何か、運動療法の中止基準
2	関節可動域低下に対する理論	関節可動域が低下するとは、関節可動域制限の定義 関節可動域練習の効果と理論
3	関節可動域低下に対する運動療法①	6大関節に対するストレッチ
4	関節可動域低下に対する運動療法②	6大関節に対するストレッチ
5	関節可動域低下に対する運動療法③	6大関節に対するストレッチ
6	筋力低下に対する理論	筋力が低下する原因 筋力増強練習の効果と理論 RMとは 筋力増強練習の原理と原則
7	筋力低下に対する運動療法①	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
8	筋力低下に対する運動療法②	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
9	筋持久力低下に対する理論	筋持久力・局所持久力とは何か、筋持久力の診かた、筋持久力に対する運動療法
10	持久力低下に対する理論	運動負荷試験体験、運動による呼吸循環動態の変化
11	リラクゼーション	筋弛緩の定義、筋弛緩の目的、筋弛緩の方法
12	姿勢調整	理想的な姿勢アライメント、姿勢障害に対する運動療法をどのように進めるか
13	歩行練習	歩行練習で使用する器具の紹介 跛行と歩行練習について
14	運動学習	運動学習の理論
15	まとめ	振り返りとテストに向けて

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動器系理学療法学				
担当者氏名	坂田 晋一、福田 崇				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

運動器障害に対する理学療法評価および治療立案および実施するために、代表的な整形外科疾患の病態と障害に対する検査測定および治療プログラムを身につける。

《目標行動(SBO)》

1. 各関節の機能解剖と機能障害を踏まえた検査測定ができる
2. 運動器障害を引き起こす代表的な整形外科疾患を説明できる
3. 疾患名からリスク・運動器の障害・検査測定が想起できる
4. 基本的な運動療法の方法・留意点を理解し説明できる
5. 代表的な運動療法プログラムを想起でき、実施できる

《成績評価の方法》

実技試験100%

《テキスト》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション。羊土社、2012。

《参考図書》

井樋栄二：標準整形外科学 第14版。医学書院、2020。
S.Hoppenfeld：図解 四肢と脊椎の診かた。医歯薬出版、1984。
市橋則明編：運動療法学 第2版。文光堂、2014。

《学生の留意点》

以下の注意点を気を付けながら、実技を習得すること
①事前準備 ②オリエンテーション ③体調確認 ④触れ方
⑤動かし方 ⑥動作指示 ⑦検査測定 ⑧治療 ⑨記録 ⑩結果説明
⑪片付け

《実務経験のある教員による科目》

・本科目は、福田・坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業に反映している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	授業説明・総論	整形外科（骨折・脱臼・変形性関節症）リハにおける評価・治療
2	上肢各論	肩関節の評価・治療
3	上肢各論	肩関節の症例問題
4	上肢各論	肘関節の評価・治療・症例問題
5	上肢各論	手関節・手部の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
6	下肢各論	股関節の評価・治療
7	下肢各論	股関節の症例問題
8	下肢各論	膝関節の評価・治療・症例問題
9	下肢各論	下腿の評価・治療・症例問題
10	下肢各論	足関節・足部の評価・治療・症例問題
11	体幹各論	上部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
12	体幹各論	下部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
13	リウマチ各論	関節リウマチの評価・治療・症例問題
14	評価技能習得	代表的な評価技能の練習を行う
15	治療技能習得	代表的な治療技能の練習を行う 筋力増強運動 ストレッチ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅰ				
担当者氏名	山本 千夏、中山 雅和、沼尾 拓				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

脳血管疾患の障害を理解し、その障害における評価方法についての知識・技術を習得し、基本的な介入方法を身につける

《テキスト》

原寛美、吉尾雅春 編集：『脳卒中理学療法の理論と技術』。MEDICAL VIEW. 2019年。

《参考図書》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則 著：『脳卒中の臨床神経リハビリテーション』。市村出版。2016年。、梶浦一郎・紀伊克昌・鈴木恒彦 著：『脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション』。市村出版。2012年。、Oswald Steward著 伊藤博信他訳：『機能的神経科学』。丸善出版。2007年。、富田昌夫訳：『Steps to Follow』。シュブリンガー・フェアラーク東京。2005年。

《目標行動(SBO)》

1. 脳画像を見て構造と機能が説明できる
2. 脳血管疾患における障害の説明と評価項目を列挙し、実施・記載することができる
3. 各姿勢・正常動作における構成要素を説明し、健常者に対し動作を誘導できる
4. 脳血管障害患者に対して、理学療法評価を立案・実施、及び、作改善のための課題呈示ができる

《学生の留意点》

- *実技についてはジャージ・Tシャツ・短パン等で臨むこと。
- *脳血管障害患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
- *より多くの学生と実技を行うこと。

《成績評価の方法》

レポート1回(10%)、実技試験(30%)、筆記試験(60%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理と脳画像診断
2	各論	脳血管障害の病態と障害の理解
3	脳卒中の評価	筋緊張と腱反射の関係、連合反応、筋緊張の評価
4	脳卒中の評価	Brunnstrom Recovery Stage による評価
5	合併症	嚥下障害、二次的合併症
6	リスク管理	急性期のリスク管理、予後予測、治療の考え方
7	治療学基礎	急性期のポジショニング、機能障害に対するハンドリング
8	姿勢観察	脳血管障害患者の姿勢の評価
9	基本動作の治療①	脳血管障害患者の起居動作の評価とその誘導
10	基本動作の治療②	脳血管障害患者の立ち上がり動作の評価とその誘導
11	歩行の治療	脳血管障害患者の歩行動作の評価とその誘導
12	包括的評価と高次脳機能障害	脳血管障害の包括的評価、高次脳機能障害の評価と治療
13	評価演習	模擬症例に対する評価演習
14	治療演習①	模擬症例に対する治療方法の検討①
15	治療演習②	模擬症例に対する治療方法の検討②

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	発達系理学療法学				
担当者氏名	平井 孝明				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

発達障害領域の対象者に、理学療法を実施するために、代表的な小児疾患について理解する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

毎回の授業時に紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 小児疾患の特長について説明できる。 2. 臨床像より評価と問題点の指摘、治療の方向を提示できる。 3. 脳性麻痺の理学療法評価と治療について説明できる。 4. 重症心身障害の特徴と合併症について説明できる。 5. 上記以外の代表的な小児疾患、臨床像、理学療法評価と治療について述べるができる。 6. 社会資源の種類と活用方法について説明できる。

《学生の留意点》

質疑応答、グループ発表、実技を行います。

《成績評価の方法》

ワークシート25%、課題発表25%、質疑応答25%、期末試験25%。ワークシート：毎回授業の最後に配布します。期限内に提出してください。課題：①整形外科疾患、②筋疾患、③二分脊椎、④脳性麻痺痙直型、⑤脳性麻痺アトニー型、⑥重症心身障害児

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション/小児理学療法	運動発達概論、オリエンテーション、発達の原則、発達指標
2	小児理学療法	評価
3	〃	運動発達
4	〃	呼吸
5	〃	摂食嚥下
6	〃	整形外科疾患
7	〃	筋疾患
8	〃	二分脊椎
9	〃	二分脊椎
10	〃	脳性麻痺痙直型
11	〃	脳性麻痺痙直型
12	〃	脳性麻痺アトニー型
13	〃	
14	〃	
15	〃	

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	神経筋系理学療法学				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

神経筋系障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、
 妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

- ・神経筋系理学療法評価が実施できる。
 - ・基本的な神経筋系理学療法プログラムを立案できる。
 - ・基本的な神経筋系理学療法を実施できる。
 - ・代表的な神経筋系対象者を想定した理学療法を立案・実施できる。
- 模擬患者を評価・治療できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

筆記試験70%、実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経障害理学療法学総論①	中枢神経と末梢神経
2	神経障害理学療法学総論②	神経系障害患者への理学療法評価
3	Parkinson病①	Parkinson病の病態
4	Parkinson病②	Parkinson病の評価と治療
5	Parkinson病とその関連疾患	Parkinson病とその関連疾患の評価と治療
6	脊髄小脳変性症①	脊髄小脳変性症の評価
7	脊髄小脳変性症②	脊髄小脳変性症の治療
8	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療
9	多発性硬化症	多発性硬化症の評価と治療
10	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの評価と治療
11	多発性筋炎、皮膚筋炎	多発性筋炎、皮膚筋炎の評価と治療
12	ギランバレー症候群、重症筋無力症	
13	末梢神経障害①	末梢神経障害の病態
14	末梢神経障害②	末梢神経障害の評価
15	末梢神経障害③	末梢神経障害の治療

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学Ⅱ				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

物理療法学Ⅰに続いて、理学療法の治療体系のひとつである物理療法を施術できるようになるために、その理論・手法を修得する。

《テキスト》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト改訂第3版』．南江堂．2013年．

《参考図書》

Michelle H. Cameron, 渡部一郎訳：『EBM物理療法 原著第4版』．医歯薬出版．2015年．

《目標行動(SBO)》

1. 各物理療法の生理学的作用と適応を説明できる．
2. 各物理療法の禁忌と注意事項を説明できる．
3. 各物理療法を実施できる．
4. 対象者を想定して、物理療法プログラムを立案できる．

《学生の留意点》

各物理療法について、対面が可能となった場合は講義と実技を交互に展開して、理解を深める構成です．教科書を予習したうえで、動きやすい服装で参加して下さい．

《成績評価の方法》

対面授業ができた場合：筆記試験50％，実技試験50％
オンライン授業が主体だった場合：筆記試験100％

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である．

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	物理療法Ⅱ概論	オリエンテーション，「物理療法Ⅰ」のふりかえり
2	超音波療法理論	
3	超音波療法実技	
4	極超短波療法・光線療法理論	
5	極超短波療法実技	
6	電気刺激療法理論	
7	電気刺激療法実技	
8	関節モビライゼーション	
9	関節モビライゼーション	
10	水治療法	
11	水治療法	
12	プログラム立案	疼痛の検査．疼痛の理論背景から機能障害を理解する
13	プログラム立案	プログラムに必要な要素・障害モデルを理解する．症例検討グループワーク
14	治療	治療実技
15	まとめ	

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論				
担当者氏名	長屋 説、和島 英明				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP2 に育つために生活者である対象者の「活動」・「参加」を評価し、支援する方法に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

適切な日常生活活動の支援を実現させるために、理学療法の観点から無意識に行っている日常生活活動を分析・評価し、対象者それぞれの生活の質を維持・向上できるような治療技術を習得する。また、補助具の処方・指導を実施できるようになるために、目的や使用方法を理解する。

《テキスト》

奈良勲監修：『日常生活活動学・生活環境学第4版』、医学書院、2017年 千野一他：『脳卒中の機能評価－SIASとFIM「基礎編」』、医歯薬出版、2016年

《参考図書》

伊藤利之著：『ADLとその周辺』、医学書院、2015
大川嗣雄編：『日常生活動作（活動）』、医歯薬出版、1999

《目標行動(SBO)》

1. 日常生活活動の概念、範囲（セルフケア、移動、コミュニケーション、IADL）が説明できる。
2. 代表的なADL評価の各特徴を説明し実施できる。
3. セルフケアの動作分析ができる（健常者）
4. 歩行・移動補助具や車椅子の処方・指導ができる。
5. 動作の介助を標準的な方法で実施できる。
6. 代表的な疾患をテーマにADL指導ができる

《学生の留意点》

1. 実技の際は白衣（KC）着用・保護ゴーグル着用で参加して下さい。
2. グループにて課題を遂行するものもあります。時間調整など協力して進めて下さい。
3. レポートや課題の提出は時間を厳守して下さい。

《成績評価の方法》

<ONLINE授業>

指定された時間内に課題を提出しないと欠席になります。

<実技授業とONLINE授業で構成されます>

筆記試験 70% 実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コース・オリエンテーション	オリエンテーション・日常生活の概念・範囲/ICFによる理学療法評価
2	無意識のADLを視覚化してみる。	できるADLとしているADL、目標とするADL/「できる」の定義
3	移動動作介助	移乗動作とは/起居移乗・床上動作の種類と目的/複合動作
4	移乗動作介助 1	移乗・移動動作を誘導する1(全介助)
5	移乗動作介助 2	移乗・移動動作を介助する2(軽介助)
6	移乗動作介助 3	移乗・移動動作の介助方法を知る3(部分介助・半介助)
7	移乗動作介助 4	特殊な移乗・移動介助(介助バー・ずり落ち修正・T/B・リフター)
8	移動補助具1	移動補助具の種類と適応1(車椅子・整備点検)
9	移動補助具2	移動補助具の種類と適応2(杖・松葉杖その他 障害物 階段)
10	ADL評価1(量的評価)	FIM・BI・自立度を使用した日常生活活動の評価/質的評価と量的評価1
11	ADL評価2(量的評価)	FIM・BI・自立度を使用した日常生活活動の評価/質的評価と量的評価2
12	ADL評価3(量的評価)	FIM・BI・自立度を使用した日常生活活動の評価/質的評価と量的評価3
13	ADL評価4(質的評価)	実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう1
14	ADL評価5(質的評価)	実際にどのような角度と動作が必要なのか調べてみよう2
15	移動困難な状況とは	移動介助の応用編 (THA) 高齢者とADL (フレイル/ロコモティブシンドローム/サルコペニアなど)

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学				
担当者氏名	森田 浩章、小林 規彦				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

1. 対象者の障害に応じた義肢装具の活用方法を知るために、構造や適合、ならびに義肢装具使用による理学療法を理解する
2. 臨床で義肢装具を活用するために、組立てや調整の技術を習得する

《テキスト》

細田多穂：『義肢装具学テキスト第3版』。南江堂。2018年。

《参考図書》

日本整形外科学会：『義肢装具のチェックポイント第8版』。医学書院。2014年

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用に至る経緯が説明できる
2. 各義肢装具の名称・パーツ・機能および適応が説明できる

《学生の留意点》

疾患や障害に対する理解が必要。知識としての理解とともに、理学療法士の技術として修得するよう心掛け理解を深める。

《成績評価の方法》

筆記試験 50% 小テスト 25% 課題レポート 25%

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	義肢装具学総論
2	〃	切断者の評価
3	〃	大腿義足①
4	〃	大腿義足②
5	〃	大腿義足のギア・ソケットの作成
6	〃	足部と下腿義足
7	〃	股・膝・足部義足、障害者スポーツ
8	〃	義肢装具の給付・処方・臨床での理学療法の流れ
9	装具学	下肢装具 総論
10	〃	短下肢装具
11	〃	長下肢装具
12	〃	膝装具・股装具
13	〃	下肢装具チェックアウト
14	〃	靴型装具・体幹装具
15	〃	上肢装具

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域理学療法学				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP2 に育つために地域包括ケアシステムに関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

地域包括ケアシステムでの理学療法士の役割を果たすために、
地域の概念、法・制度、理学療法、健康維持・増進、予防、家
族指導について学ぶ。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

大田仁史編集：『地域リハビリテーション論ver.7』.三輪書
店.2018
重森健太編集：『地域リハビリテーション学』.羊土社.2019
伊藤隆夫編集：『図解訪問理学療法技術ガイド』.文光堂.2014
大淵修一監修：『予防理学療法学要論』医歯薬出版.2018

《目標行動(SBO)》

- ・地域包括ケアシステム、災害リハビリテーションの概要を説明できる。
- ・地域リハビリテーションを説明できる。
- ・地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割を解説できる。
- ・在宅対象者の理学療法評価・理学療法が実施できる。
- ・施設入所者の理学療法評価・理学療法を実施できる。
- ・維持期/終末期の理学療法評価・理学療法を実施できる。

《成績評価の方法》

提出課題(用語) 成果物25% ※第1回のため要注意
提出課題(歴史) 成果物20% ※第2回のため要注意
提出課題(3～15回で習得した内容) 成果物65%
※坂田担当分の3～11回は各5点。
※12・13回で5点。14・15回で5点。

《学生の留意点》

- ・0D講義で行う。第1・2回の成績課題は配点が大きいので要注意
- ・講義中に課題を行わず、受動的な講義参加は自分だけでなく、協同学習者の学習を阻害する。共に学ぶ場を皆で創ること。
- ・地域に関する調査を行います。教員側で配慮する必要があるはお声掛けください。二次予防は高齢期理学療法学で学びます

《実務経験のある教員による科目》

坂田(理学療法士)が担当し、その実務経験を授業の講義やグループワークにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	地域リハビリテーションと地域理学療法	授業概要 地域リハビリテーションと地域理学療法の用語について
2	地域リハビリテーションと法律の歴史	地域リハビリテーションと法律の歴史について
3	予防理学療法	用語について
4	三次予防	訪問サービスについて、ケアプラン等
5	三次予防	通所サービスについて
6	一次予防	病気ではない方への介入について
7	介入効果	地域理学療法ガイドライン・介護予防ガイド
8	地域包括ケアシステム	システムが降りてくるものではなく、地域で主体的に作りだすものである。 地域における理学療法士の役割
9	地域活動の事例紹介	科目担当が関わっている新宿の事例紹介(新宿食支援研究会)
10	地域調査・地域ケアマッピング手法	人口動態の確認(J-stat)・地域の医療・介護資源の確認(Google map)
11	総合事業・介護予防教室	地域住民の通いの場の意義とプログラム内容
12	行政における理学療法士の役割(和島)	行政における理学療法士の役割機能と事例
13	就労支援(中村)	障害者の雇用と就労
14	生活行為向上マネジメント(河野崇)	その人にとって意味ある作業・生活行為に焦点を当てて、自立支援に資する包括的マネジメントツール
15	災害リハビリテーション(国福)	地域の防災と災害支援と災害リハビリテーション

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 I				
担当者氏名	森田 浩章、山本 千夏				
授業方法	実習	単位・回	2単位・45回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 DP2 に育つために専門職としてビジネスマナーを実践する。 DP2 に育つために検査測定を体験する。 DP3 に育つために地域包括ケアシステムの中での実習施設の役割について理解する。 DP4 に育つためにあるべき専門職の姿を考察する。				

《一般教育目標(GIO)》

地域包括ケアシステムを理解し、信頼性のある検査測定技術を研鑽するために、地域リハビリテーション現場を見学することと検査測定技術を対象者に応用する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

- ・地域包括ケアシステムの中での実習施設の役割を理解すること。
- ・実習施設での多職種の役割と連携を理解すること。
- ・対象者と職員のコミュニケーションのあり方を学ぶこと。
- ・基本的なビジネスマナーを実践できる。
- ・医療安全/個人情報保護を遵守できる。
- ・「検査測定技術」を体験すること。
- ・あるべき専門職の姿を考察できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		・7～8月の2週間（45h*2）。 ・地域リハビリテーション施設での見学（1週間）と検査測定技術の体験（1週間）を実施。
2		肢長・周径測定、ROMテスト、徒手筋力テスト、神経学的テストなどの検査測定の実施と記録を数多く実施させる。
3		実施した検査測定項目ごとに、正常から逸脱した結果を抽出させ、知識の範囲内で原因分析をさせる。
4		各検査間の関連性を考察させる。
5		標準的な方法で起居動作介助や移乗・移動動作などの介助を数多く実習させる。
6		地域リハビリテーションの現場を見学する
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ				
担当者氏名	森田 浩章、山本 千夏				
授業方法	実習	単位・回	3単位・68回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

2年間の総復習を図るために、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

- ・実習施設での多職種役割と連携を理解すること。
- ・対象者と職員のコミュニケーションのあり方を学ぶこと。
- ・基本的なビジネスマナーを実践できる。
- ・対象者の問題を解決するために、基本的な情報収集、検査測定ができる。
- ・基本的な臨床推論により理学療法プログラムを立案できる。
- ・あるべき専門職の姿を考察できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		・昼間部：2年次 1～2月の3週間 (45h*3) ・診療参加型臨床実習教育。
2		・実習指導者に帯同し、業務の周辺より参加させて頂く。
3		・対象者への侵襲程度が低いレベルから、徐々に、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。
4		・教育評価はOSCEを実習前に実施し、実習の成果を実習後、評価する。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	統計学				
担当者氏名	美崎 定也				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

臨床的疑問を吟味するために医療統計学の基礎知識と臨床における役割を理解する。

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

楽しい疫学、医学への統計学

《目標行動(SBO)》

1. 統計学の基礎的知識を説明できる
2. 臨床研究における統計学の重要性を説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

学期末筆記試験にて評価する

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	統計とは(統計学総論)	統計の必要性、統計の考え方
2	臨床と統計	EBPTや研究における統計の活用、論文の読み方
3	記述統計	基本統計量
4	データの視覚的表示	ヒストグラム、棒グラフ、散布図など
5	データと分布	母集団、標本、正規分布
6	分析(推測)統計	推定と検定
7	検定の実際1	t検定、一元配置分散分析
8	検定の実際2	二元配置分散分析、反復測定分散分析
9	検定の実際3	ノンパラメトリック検定
10	検定の実際4	相関分析、カイ二乗検定
11	多変量解析	重回帰分析、ロジスティック回帰など
12	検査特性	感度、特異度、尤度比、ROC曲線など
13	データ解析演習1	データ解析演習1
14	データ解析演習2	データ解析演習2
15	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション医学				
担当者氏名	関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

理学・作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』
・ 南江堂、2016年

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動(SBO)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる。
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる。
4. 各障害の特徴を列挙できる。

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭において勉強して欲しい。

《成績評価の方法》

筆記試験

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義にかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳障害1	脳卒中・頭部外傷等の障害学
2	脳障害2	急性期のリハビリテーション
3	脳障害3	慢性期のリハビリテーション
4	脊髄損傷1	病態総論、診断法、合併症
5	脊髄損傷2	急性期のリハビリテーション
6	脊髄損傷3	慢性期のリハビリテーション
7	関節リウマチ1	疾患の概要・障害像、診断と評価その1
8	関節リウマチ2	診断と評価その2、リハビリテーション
9	神経・筋疾患1	パーキンソン病、脊髄小脳変形症
10	神経・筋疾患2	多発性硬化症、ALS、筋ジストロフィー
11	骨・関節疾患	変形性関節症等
12	切断1	総論、切断と義肢
13	切断2	切断のリハビリテーション
14	循環器・呼吸器	心機能及び呼吸機能障害のリハビリテーション
15	小児リハ	小児のリハビリテーション、その他

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅱ				
担当者氏名	沼尾 拓、山形 哲行				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習で具体的な事例を通じてその適応を学ぶために、必要な最低限の知識・技術（基礎と代表的な疾患における）・態度を身に付ける

《テキスト》

適宜資料を配布する

《参考図書》

適宜紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 基礎医学・臨床医学の知識を確認・説明できる
2. 基礎医学，臨床医学の知識の臨床応用を説明できる
3. 基本的な評価・治療が実施できる
4. 言葉遣いや振る舞いの適切さ・不適切さが判断できる
5. 面接及び検査測定を行う際にリスク管理ができる

《学生の留意点》

基礎医学と臨床医学を理解するためのグループ学習を行い，知識の定着を確認することが繰り返されます
臨床の場で行う実践演習であることを自覚し，主体的な学びを心がけること授業時間外の復習によってその成果が大きく左右されますので，積極的な取り組みを期待します

《成績評価の方法》

筆記試験70%（小テスト，まとめテストに配分していく）

実技試験30%（期末）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行，沼尾拓（理学療法士）が担当し，その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	科目オリエンテーションテスト	授業ガイダンス 確認テスト グループワーク（以下G.W）開始
2	運動機能学と臨床医学①	運動機能学と整形外科学の小テストおよび復習（G.W）
3	解剖生理学（動物機能）と臨床医学②	解剖生理学（動物機能）と中枢神経・筋疾患、人間発達学の小テストおよび復習（G.W）
4	解剖生理学（植物機能）と臨床医学③	解剖生理学（植物機能）と一般内科学の小テストおよび復習（G.W）
5	臨床医学④	精神・心理、病理学、リハビリテーション概論の小テストおよび復習（G.W）
6	理学療法①	評価学、運動療法、整形外科PT学の小テストおよび復習（G.W）
7	理学療法②	ADL、物理療法、義肢・装具学、基礎理学療法学、内部障害PT学の小テストおよび復習（G.W）
8	理学療法③	脳血管障害PT学、神経・筋、小児PT、脊髄損傷PT学の小テストおよび復習（G.W）
9	理学療法④	基礎医学、臨床医学、PT学のまとめテストおよび復習（G.W）
10	実習前実技演習①	リスク管理からバイタルチェックまでの実技演習およびG.W
11	実習前実技演習②	整形外科疾患患者への理学療法①
12	実習前実技演習③	整形外科疾患患者への理学療法②
13	実習前実技演習④	中枢神経疾患患者への理学療法①
14	実習前実技演習⑤	中枢神経疾患患者への理学療法②
15	実習前実技演習⑥	内部疾患患者への理学療法

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論Ⅱ				
担当者氏名	小林 規彦				
授業方法	講義	単位・回	1単位・8回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

1. 日本の医療制度を知るために、歴史的背景および現状を理解し、リハビリテーション現場の保険・医療・福祉システムを考察する
2. 地域リハビリテーションを含む現場の諸問題を理解するために、事例検討を通し考察する

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

映像資料の中で紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 日本の保険・医療・福祉制度の概略を説明できる
2. リハビリテーション現場の諸問題（症例検討を通し）から、具体的行動目標を示せる

《学生の留意点》

授業は、講義と発表により構成される。学院内の生活では実感が持てない、臨床で重要な課題を数多く提示します。よって日常的にリハビリテーションに関連した事象に対して、意識的に情報収集する姿勢が望まれます。

《成績評価の方法》

毎回の課題 100% (4回分)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士実務のほか社会学分野ならびに介護保険分野実務経験をもとに展開する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法概論Ⅱ 展開	日本の医療制度の仕組みと診療報酬体系
2		リハビリテーションの現状と関連する諸制度Ⅰ
3		リハビリテーションの現状と関連する諸制度Ⅱ
4		日本の医療が抱える諸問題の検討
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学技術論				
担当者氏名	山形 哲行、複数外来講師				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

＜症例検討＞適切な運動療法を提供できるようになるために、疾患に即した評価と治療の方法を理解することができる。
 ＜PNF＞治療方法を理解し、基本パターン実施できるようになる。
 ＜疾患別＞脳血管障害患者の各種症状に対する評価と治療を実施することができる
 ＜演習＞適切な治療を提供できるようになるために、評価から治療までの道筋を立てるようになることができる

《テキスト》

《参考図書》
 授業中に提示

《目標行動(SBO)》

1. 上肢における機能的な特徴を挙げ、片麻痺患者の上肢機能と比較できる。
2. 上肢機能改善のための課題を提示できる。
3. 失調症患者に対する治療原則を挙げ、治療手段を選択できる。
4. 高次脳機能障害の要因を説明することができる。
5. 高次脳機能障害に対する治療を説明する事ができる。

《学生の留意点》

＜PNF＞ 実技を主として行うのでTシャツ・スパッツ等で参加すること
 ＜疾患別＞ 実技と演習を行うので脳血管障害の授業を復習しておくこと。

《成績評価の方法》

＜症例検討＞ レポートにて評価する
 ＜PNF＞ 基本パターンの実技試験・口頭試問
 ＜疾患別＞ 小テスト

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	症例検討Ⅰ	中枢神経疾患の症例検討①（山形）
2	症例検討Ⅱ	中枢神経疾患の症例検討②（山形）
3	症例検討Ⅲ	骨関節疾患の症例検討①（江原）
4	症例検討Ⅳ	骨関節疾患の症例検討②（江原）
5	治療概念PNFの治療概念と基本テクニック	PNFオリエンテーション（可児）
6	PNF 実技①	基本パターン上肢、下肢（可児）
7	PNF 実技②	基本パターン下肢、体幹（可児）
8	PNF 実技③	基本パターン肩甲骨、骨盤、頸部、特殊テクニック（可児）
9	脳血管障害の評価と治療①	脳血管障害患者への上肢の評価と治療
10	脳血管障害の評価と治療②	失調症に対する評価と治療（山形）
11	脳血管障害の評価と治療③	高次脳機能障害に対する評価と治療①（山形）
12	脳血管障害の評価と治療④	高次脳機能障害に対する評価と治療②（山形）
13	グループ演習①	模擬症例の検討①（各教員）
14	グループ演習②	模擬症例の検討②（各教員）
15	グループ演習③	模擬症例の検討③（各教員）

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	脳血管障害理学療法Ⅱ				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	講義	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

脳血管障害患者に対して理学療法を実施できるようになるために基礎的な治療技術を習得する。

《テキスト》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則編
脳卒中の臨床神経リハビリテーション 市村出版

《参考図書》

随時紹介していく

《目標行動(SBO)》

1. 姿勢・動作改善のためのハンドリングが実施できる
2. 脳血管障害患者に対する評価から治療手段の選択までの一連の流れを組み立てる事ができる
3. 脳血管障害患者のADL改善のための治療手段を選択できる
4. 脳血管障害患者に対して、理学療法治療計画を立案し、一部を実施できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

実技(40%)，筆記テスト(60%)，で総合的に評価する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行(理学療法士)が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	治療学総論	脳血管障害患者の理学療法に必要な神経機構、治療戦略、ハンドリングの基本①
2	治療学総論	脳血管障害患者の理学療法に必要な神経機構、治療戦略、ハンドリングの基本②
3	治療学各論①	脳血管障害患者の理学療法評価①
4	治療学各論②	脳血管障害患者の理学療法評価②
5	治療学各論③	ハンドリング：寝返り～起き上がり①
6	治療学各論④	ハンドリング：寝返り～起き上がり②
7	治療学各論⑤	ハンドリング：座位～立ち上がり①
8	治療学各論⑥	ハンドリング：座位～立ち上がり②
9	治療学各論⑦	バランス反応の再教育(座位バランス)
10	治療学各論⑧	バランス反応の再教育(立位バランス)
11	歩行の神経機構	歩行の神経学的背景について
12	治療学各論⑨	ハンドリング：歩行
13	脳血管障害のエビデンス	脳血管疾患患者のEBPT (Evidence Based Physical Therapy)
14	症例検討①	脳血管障害患者の模擬症例検討①
15	症例検討②	脳血管障害患者の模擬症例検討②

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論演習				
担当者氏名	山本 千夏、中山 雅和				
授業方法	演習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法的視点から各疾患の特性を理解し、対象者の日常生活活動を的確に評価できるようになるために、それぞれの個性・多様性を踏まえたADL指導を習得する。

《テキスト》

奈良勲監修：標準理学療法学専門分野『日常生活活動学・生活環境学第4版』。医学書院。2012年。

《参考図書》

伊藤利之著：『ADLとその周辺 第3版』 医学書院。2015年。

《目標行動(SBO)》

1. 疾患の特性に応じたADLの特徴、基本動作の方法、リスクを述べることができる。
2. 疾患の特性に応じたADLの評価を実施することができる。
3. 対象者の基本動作を力学的視点で分析することができる。
4. 対象者個人にあわせたADL（環境を含む）指導ができる。
5. 疾患の特性を理解した上で、適切な援助方法を（本人及び支援者に）提示できる。

《学生の留意点》

実技の際は動きやすい服装で参加すること。ジーパンやスカートは不可。

《成績評価の方法》

筆記試験70% 実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	疾患別各論	【脳血管障害の特性を理解する】①
2	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】②
3	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】③
4	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】④
5	疾患別各論	【神経筋疾患の特性とADL指導】
6	疾患別各論	【関節リウマチのADLの特性とADL指導】
7	疾患別各論	【変性疾患・骨関節疾患手術後の特性とADL指導】
8	疾患別各論	【高齢者の特性とADL指導】
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	内部障害理学療法学				
担当者氏名	小島 肇、林 佑樹				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

循環器系・呼吸器系・代謝系を中心とするがんを含めた内部障害を有する対象者の理学療法評価と治療を実施するために、それらの病態・障害特性を理解したうえで、各理学療法を修得すること。

《目標行動(SBO)》

1. 内部障害対象者の病態・障害特性を説明できる。2. 内部障害対象者の理学療法評価ができる。3. 内部障害系理学療法を立案できる。4. 呼吸理学療法手技を実施できる。

《成績評価の方法》

筆記試験50%，実技試験30%，課題と小テスト20%。

《テキスト》

高橋哲也編：『最新理学療法学講座 内部障害理学療法学』。医歯薬出版。2021年。

《参考図書》

心臓リハビリテーション必携-指導士認定試験準拠-。日本心臓リハビリテーション学会 2011。千住他監修：『呼吸理学療法標準手技』。医学書院。2008年。『呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版』。照林社 2012。¥3,996 清野他監修：『糖尿病の理学療法』。メディカルレビュー 2015。¥5,616

《学生の留意点》

臨床医学の中核をなす内部障害系疾患を理解することは、他のリハビリテーション適応疾患や障害に対する理学療法を発展させる基礎になります。重要な項目を授業の中で取り上げ、他の項目については教科書を用いて主体的に学修することが求められます。必ず予習して参加して下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	循環機能障害と理学療法	循環機能評価、フィジカルアセスメント
2	〃	運動生理学評価、心電図
3	〃	虚血性心疾患
4	〃	心不全
5	〃	閉塞性動脈硬化症
6	呼吸機能障害と理学療法	呼吸器の解剖生理学、血液ガスの解釈
7	〃	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント、スパイロメトリー、フローボリューム曲線
8	〃	呼吸器不全の病態、呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎
9	〃	急性呼吸不全：人工呼吸器、酸素療法
10	〃	慢性呼吸不全
11	〃	呼吸リハビリテーション：コンディショニング、呼吸介助法、排痰手技
12	代謝障害と理学療法	糖尿病
13	〃	慢性腎臓病
14	循環機能障害と理学療法	症例検討
15	がんのリハビリテーション	病態・障害とリハビリテーション

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	生活環境論				
担当者氏名	和島 英明				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

高齢者や障害者の住環境整備に役立てるために、人が暮らしやすい生活環境・住環境・福祉用具等に関する基本的事項について理解する。

《テキスト》

資料を配付します。

《参考図書》

木村哲彦 監修：『生活環境論－生活支援の視点と方法－第6版』。医歯薬出版。2010年。

《目標行動(SBO)》

1. 高齢者や障がい者の住環境の問題点やその対策について説明できる。
2. 住宅改修の方法や福祉用具の種類、選び方、使用法などについて説明できる。
3. 自宅、市街地や交通機関等の生活環境におけるバリア、バリアフリーについて説明できる。

《学生の留意点》

- *身の回りの生活環境に関心を持ち広い視野でとらえること。
- *また高齢者や障がい者の住環境や福祉用具に関する基本的事項に関する理解を深めてください。
- *市街地のバリア・バリアフリー調査では、車椅子使用を想定して、道幅、段差、スロープ、トイレ等の状況を見てください。
- *加瀬澤先生の授業は対面、その他はオンデマンド実施予定です。

《成績評価の方法》

各回の授業課題（40%）、市街地バリア・バリアフリー調査発表（30%）、住宅内バリア・バリアフリー調査発表（30%）。
*調査発表というのは、オンデマンド上で皆さんの調査結果をまとめて配信し、それを供覧します。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、加瀬澤（1級建築士）、藤川（理学療法士）、和島（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容の講義やフィールドワーク等にかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 日本の住宅の特徴	日本の住宅の基本的な構造、他(藤川)
2	家屋環境と家屋改修①	事例、他①(加瀬澤先生) 対面授業
3	家屋環境と家屋改修②	事例、他②(加瀬澤先生) 対面授業
4	住宅環境と設備、高齢者等の住まい①	住宅環境と設備、バリア・バリアフリー、他①(和島)
5	住宅環境と設備、高齢者の住まい②	住宅環境と設備、バリア・バリアフリー、他②(和島)
6	市街地バリアフリー調査&住環境整備①	障害と住環境整備(移動、段差、手すり等)① *6回～9回あたりで、市街地のバリア・バリアフリー調査を進めてください(和島)
7	市街地バリアフリー調査&住環境整備②	障害と住環境整備(移動、段差、手すり等)② *6回～9回あたりで、市街地のバリア・バリアフリー調査を進めてください(和島)
8	市街地バリアフリー調査&住環境整備③	障害と住環境整備(移動、段差、手すり等)③ *6回～9回あたりで、市街地のバリア・バリアフリー調査を進めてください(和島)
9	市街地バリアフリー調査&住環境整備④	障害と住環境整備(移動、段差、手すり等)④ *6回～9回あたりで、市街地のバリア・バリアフリー調査を進めてください(和島)
10	福祉用具①	福祉用具の種類、選び方、使い方、ひやりはっと①(和島)
11	福祉用具②	福祉用具の種類、選び方、使い方、ひやりはっと②(和島)
12	市街地バリア・バリアフリー調査発表①(1組発表)	市街地バリア・バリアフリー調査の学生発表(和島)
13	市街地バリア・バリアフリー調査発表②(2組発表)	市街地バリア・バリアフリー調査の学生発表(和島)
14	住宅内のバリアの調査発表①(1組発表)	住宅内のバリアに関する学生発表(和島)
15	住宅内のバリアの調査発表②(2組発表)	住宅内のバリアに関する学生発表(和島)

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域理学療法論				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

地域におけるリハビリテーションを実現するために、理学療法士が働く地域、地域で生活する人、地域の社会資源、地域における理学療法士の役割について理解する。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019福祉機器 選び方・使い方 副読本 住宅改修、入浴、トイレわが家をバリアフリーに 住宅改修編。
一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019福祉機器 選び方・使い方 副読本 福祉車両、福祉に役立つ情報機器・電子機器、自助具 自立支援編。

《目標行動(SBO)》

1. 地域リハビリテーションや様々な社会資源の概要を説明できる
2. 生活支援が必要な高齢者や障害者の状況を具体的に説明できる
3. 生活支援プログラムを挙げることができる

《学生の留意点》

- ・0D講義で行う。第1・2回の成績課題は配点が高いため要注意
- ・講義中に課題を行わず、受動的な講義参加は自分だけでなく、協同学習者の学習を阻害する。共に学ぶ場を皆で創ること。
- ・地域に関する調査を行います。教員側で配慮する必要がある場合はお声掛けください。二次予防は高齢期理学療法学で学びます

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、山本（社会福祉士）坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業の講義やグループワークにいかした授業としている。

《成績評価の方法》

提出課題(用語) 成果物25% ※第1回のため要注意
提出課題(歴史) 成果物20% ※第2回のため要注意
提出課題(3～15回で習得した内容) 成果物65%
※坂田担当分の3～11回は各5点。
※山本先生担当分の12・13回で5点。14・15回で5点。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	地域リハビリテーションと地域理学療法	授業概要 地域リハビリテーションと地域理学療法の用語について
2	地域リハビリテーションと法律の歴史	地域リハビリテーションと法律の歴史について
3	予防理学療法	用語について
4	三次予防	訪問サービスについて、ケアプラン等
5	三次予防	通所サービスについて、ケアプラン等
6	一次予防	病気ではない方への介入について
7	介入効果	地域理学療法ガイドライン・介護予防ガイド
8	地域包括ケアシステム	システムが降りてくるものではなく、地域で主体的に作りだすものである。地域における理学療法士の役割
9	地域活動の事例紹介	科目担当が関わっている新宿の事例紹介（新宿食支援研究会）
10	地域調査・地域ケアマッピング手法	人口動態の確認（J-stat）・地域の医療・介護資源の確認（Google map）
11	総合事業・介護予防教室	地域住民の通いの場の意義とプログラム内容
12	行政における理学療法士の役割（和島）	行政における理学療法士の役割機能と事例
13	就労支援（中村）	障害者の雇用と就労
14	生活行為向上マネジメント（河野崇）	その人にとって意味ある作業・生活行為に焦点を当てて、自立支援に資する包括的マネジメントツール
15	災害リハビリテーション（国福）	地域の防災と災害支援と災害リハビリテーション

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-A				
担当者氏名	沼尾 拓、山形 哲行				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。
理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

1. 理学療法評価ができる。
2. 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定ができる。
3. 治療プログラムを基本的な範囲で立案できる
4. 治療プログラムを実施できる。記録・報告が行える。
5. 必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる。
6. 専門職業人として適切な態度や行動をとることができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書70％・実習後セミナー30％

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		担当症例の《初期評価（対象者・疾患の理解、各種検査測定の実施、記録、統合と解釈）、目標設定、治療プログラムの立案、実施、再評価、最終評価など》を実施
2		指導理学療法士の責任と指導のもとに偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分に把握
3		疾患から生じるとされる一般的な種々の障害と実際に対象者が示す種々の障害との共通点、相違点に気づかせ、あくまでも対象者の全体像を把握することに努める
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-B				
担当者氏名	沼尾 拓、山形 哲行				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。

理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

1. 理学療法評価ができる。
2. 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定ができる。
3. 治療プログラムを基本的な範囲で立案できる
4. 治療プログラムを実施できる。記録・報告が行える。
5. 必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる。
6. 専門職業人として適切な態度や行動をとることができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書70%・実習後セミナー30%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		担当症例の《初期評価（対象者・疾患の理解、各種検査測定の実施、記録、統合と解釈）、目標設定、治療プログラムの立案、実施、再評価、最終評価など》を実施
2		指導理学療法士の責任と指導のもとに偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分に把握
3		疾患から生じるとされる一般的な種々の障害と実際に対象者が示す種々の障害との共通点、相違点に気づかせ、あくまでも対象者の全体像を把握することに努める
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		